平成31・令和元年度

芸術文化振興基金
文化芸術振興費補助金

助成事業事例集

独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次

芸術文化振興基金助成事業

助成対象者インタビュー

一般社団法人 iaku

舞台芸術・美術等の創造普及活動

1 現代舞台芸術創造普及活動（音楽）
第 12 回長崎定期演奏会　第 27 回大村定期演奏会
認定特定非営利活動法人 長崎 OMURA 室内合奏団

2 現代舞台芸術創造普及活動（舞踊）
2019 年 地主薫バレエ団公演『人魚姫』
地主薫バレエ団

3 現代舞台芸術創造普及活動（演劇）
『Alcestis — a strange episode アルケスティス異聞』
一般社団法人 清流劇場

4 伝統芸能の公開活動
第五回あべの歌舞伎「晴の会（そらのかい）」公演
あべの歌舞伎上演実行委員会

5 美術の創造普及活動
ヒロシマ アート ドキュメント 2019 展
CREATIVE UNION HIROSHIMA

6 多分野共同等芸術創造活動
飛生芸術祭 2019「まち × ひと × アート」
飛生アートコミュニティー

国内映画祭等の活動

7 国内映画祭
第 20 回東京フィルメックス／ TOKYO FILMeX 2019
認定 NPO 法人 東京フィルメックス

8 日本映画上映活動
特集上映：岡本喜八監督特集
映画（シャシン）に刻まれた律動（リズム）
公益財団法人 山口市文化振興財団

地域の文化振興等の活動

9 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演）
North JAM Session 2019
公益財団法人 札幌市芸術文化財団

10 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）
森田恒友展
埼玉県（埼玉県立近代美術館）

11 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動
廿日市市宮島町歴史的町並み保存啓発活動
廿日市市

12 民俗文化財の保存活用活動
福野神明社祭礼における横町曳山巡行及び保存伝承活動
横町曳山保存会

13 アマチュア等の文化団体活動
KOBE スティールパンカーニバル 2019
アスタ新長田スティールパン振興会

14 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動
記念展「京都の北と南の織物―丹後の藤布（ふじぬの）と相楽木綿（さがなかもめん）―」の開催
丹後藤織り保存会・相楽木綿の会合同記念展実行委員会

文化芸術振興費補助金助成事業

舞台芸術創造活動活性化事業

15 音楽
名古屋フィルハーモニー交響楽団　定期演奏会　公益財団法人 名古屋フィルハーモニー交響楽団

16 舞踊
『リーズの結婚～ラ・フィーユ・マル・ガルデ～』　一般財団法人 牧阿佐美バレヱ団

17 演劇
青年劇場第 122 回公演・飯沢匡没後 25 年記念『もう一人のヒト』　有限会社 青年劇場

18 伝統芸能
第六十五回　同明会能　一般社団法人 京都能楽囃子方同明会

19 大衆芸能
一心寺門前浪曲寄席　公益社団法人 浪曲親友協会

国際芸術交流支援事業

20 海外公演／舞踊
山海塾ツアー 2019　特定非営利活動法人 山海塾

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

21 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
舞台芸術の創造現場を魅せる劇場　公益財団法人 東京都歴史文化財団　東京芸術劇場

22 共同制作支援事業
グランドオペラ共同制作　ビゼー作曲　オペラ『カルメン』全４幕
神奈川県民ホール（公益財団法人 神奈川芸術文化財団）

23 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業
鼓童ワン・アース・ツアー 2019『道』　株式会社 北前船

映画製作への支援

24 劇映画　特別
ある船頭の話　株式会社 木下グループ

25 劇映画　A
影裏（えいり）　株式会社 OFFICE Oplus

26 記録映画　A
くじらびと　Bonfilm 合同会社

27 アニメーション映画
HELLO WORLD　株式会社 グラフィニカ

参考　芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金による助成

文化芸術振興費補助金による助成

文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

劇場で体験することを大切に 息長く上演され続ける作品を

助成金を利用したことがない人にとって、不安なことは多いと思います。そこで、2019（平成31）年度の芸術文化振興基金助成事業に応募し、現代舞台芸術創造普及活動（演劇）の助成を受けた一般社団法人 iaku の横山拓也さんに、助成制度を活用した体験と団体の活動について語っていただきました。

一般社団法人 iaku

助成金額　1,517千円

プロフィール

横山拓也（よこやま・たくや）：劇作家・演出家。一般社団法人 iaku 代表理事。1996年、大阪芸術大学在学中に劇団を結成。退団後の2012年に iaku を立ち上げ、旗揚げ作品『人の気も知らないで』が第1回せんだい短編戯曲賞大賞受賞。17年、『ハイツブリが飛ぶのを』脚本にて、第72回文化庁芸術祭賞演劇部門新人賞受賞。

▲横山拓也さん

活動概要

劇作家の横山拓也が、2012年に大阪で創立した個人の演劇ユニット。公演の度に優れた俳優を招き、横山のオリジナル作品を日本各地で発表している。尊厳死、命の選別、LGBTなど多彩なモチーフを縦糸に、日本人的な感情のぶつかり合いをエンタテインメントとして描く手腕に定評があり、近年は東京公演で完売日が続出するなど、注目度を高めている。

〒565-0875　大阪府吹田市青山台3-4-4
e-mail: info.iaku@gmail.com
URL: http://www.iaku.jp

助成実績

2013年『目頭を押さえた』より、毎年の公演で芸術文化振興基金助成事業に採択されている。2019年度の助成対象となったのは、横山拓也作・演出による『あつい胸さわぎ』。出演：辻凪子、枝元萌、田中亨、橋爪未萌里、瓜生和成。東京公演：2019年9月13日～23日・こまばアゴラ劇場、大阪公演：9月26日～29日・インディペンデントシアター1st、2カ所・23回公演。東京公演、大阪公演いずれも連日満員となった。なお、大学生の娘を持つシングルマザーを演じた枝元萌が第27回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。

申請から助成決定

▶申請書で思考を整理

――　結成翌年の早い時期から助成事業に採択されていますね。最初から助成事業のことはご存じでしたか。

横山　iaku を個人で立ち上げる前は大阪で15年ほど劇団をやっていました。その時も検討はしていたんですが、制作のプロもいないし、申請の仕方がわからなくて。iaku になってから挑戦してみたら、幸い1回目で助成いただけたんです。最初の年は制作さんにお願いして、2年目以降は自分で申請書を書くようになりました。

――　申請書はご自分で書かれるんですね。

横山　文章部分だけですけど、毎回苦労します（笑）。ただ、自分の作品が社会的にどんな波及効果があるのかを言語化することが、作品づくりにプラスに働くということは発見でした。自分が漠然と興味を持ったことを思いついた時にスマホでメモして、それを見ながら次の作品のテーマやモチーフを決めていくんですが、その作業を申請書でやらせてもらっている感じです。今、自分が何を書けばいいのかを一番早く言語化するので、企画書作りの時には申請書を見直しますね（笑）。劇団の方向性や活動方針も整理できる気がします。

――　劇団を立ち上げた時の思いとは？

横山　立ち上げ当初から、作品が消費され続けることへの反発が強くありました。手ごたえがあったものをブラッシュアップしながらどんどん強い作品にして、10年後もどこかで上演されているような、戯曲を大切にする集団にしたいなと。会話中心のエンタテインメントを大阪から発信し、東京も一地域と見て、全国の

色々な地域に種を蒔いていくようなイメージです。関西弁のリズムやユーモアを借りて、僕が興味を持っている社会的な問題や、深めていきたい事柄を描いていく形でスタートしました。扱う題材は変化しても、命の見つめ方だったり、人間関係の軋轢の中での人と人との距離感だったり、作家として書きたい芯の部分はずっと変わらないですね。

助成期間中

▶人の「ふるまい」を描く

―― 今回の助成対象公演について教えてください。

横山 シングルマザーの母親と大学生の一人娘を中心とした人間愛の物語です。娘の乳ガンや母親の恋愛問題を通して、娘が抱える苦悩や近くて遠い親子の距離感といった感覚を描いたんですが、実はあまりストーリーにはこだわっていなくて。ある状況を与えられた時に人が滑稽になったり息苦しくなったりする、そのふるまいを描きたいんですね。色んな立場の人が登場して、皆で題材について考える機会にできたらいいなと。どの意見を言う人にもそれなりの正義があるし、その人がどんな正当性をもって喋ろうとしているのかに興味があるんです。何をぶつけられたらそれが崩れるのか、それでも虚勢を張るのか、頭を下げるのか、そこに人間ドラマがあるんじゃないかと。今回の作品で言えば娘世代と母親世代では恋愛の見え方一つでも違いますし、「観た後に親子で喋った」「お母さんに電話したくなった」、また「自分も乳ガン検診を受けにいきます」という感想もありました。観た人が主人公の心情にシンパシーを感じて“自分事”になってくれるのは面白いですし、演劇をつくる人間として冥利に尽きますね。

―― 助成によって実現したことはありますか。

横山 ここ数回は舞台美術を稽古場で組めるようになりました。美術を早く発注したり、広い稽古場を継続して借りたり、作品の精度を上げるうえで必要なことができるようになって。安心して稽古に取り組める環境が整えられるのは、演出家として一番ありがたいです。

今後の展望

▶劇場にこだわりたい

―― 今年はこのコロナ禍で多くの劇場公演が中止や延期を余儀なくされました。ご自身の公演予定や創作環境ではどんな影響がありますか。

横山 今年は、春公演で芸術文化振興基金助成事業の助成金を受けることになりましたが、コロナの影響で全公演中止となりました。それと目下の懸案は、オンラインをどう考えていくか。公演を観た人が記憶を補完するものという意味でDVDは作っていますけど、舞台の映像配信はしてないんです。無視できない状況とはわかりつつ、まだ抵抗があるんですよね。劇場空間の中で、前のめりになったお客さんの圧力が舞台に押し寄せ、いつしか息を止めるくらい集中していく。それが僕がつくる劇の醍醐味だと思っているので、やっぱり劇場という場所にこだわりたくて。劇場のサイズが広がっても耐えうる作品にできるかチャレンジしながら、空間の密度を濃くしていきたい。それがオンラインになってしまうと、僕がやりたいことではないんですよね。物語を見せたいわけではないので……。ちょっと今、悩んでます（笑）。

―― コロナの影響は計り知れないと思いますが、劇団としては確実にステップアップしているのでは？

横山 以前の作品が少し規模の大きい劇場で上演されることになったり、全国巡演されたり、「10年後も戯曲が使われたら」という当初の願いは叶っていると思います。目標を立てるって重要で、僕は3年ごとの中期目標を立ててクリアすることを続けてきたんですね。舞台芸術創造活動活性化事業の助成金を受けることも中期目標の一つで、その準備として法人化もしました。やっぱりイメージを強く持たないと、単なる繰り返しになってしまうんです。リスクを負わずに同じ規模の会場で同じ数のお客さんに毎年観てもらうことはできるけれど、自分が興味を持っている題材を体験し、思考する人がもっと増えてほしい。だから全国の色んな地域で公演したい。そうすることで、ささやかでも社会と自分の演劇が繋がっていることを実感できるんですよね。繰り返し観てもらうことも、初めて体験する人が増えることも、どちらも作品づくりの喜びです。エンタテインメントとしての間口の広さを意識しながら、お客さんにはさまざまな舞台芸術の入口にしてもらえたらいいなと。そのためにも、今後もぜひ助成金を活用させてもらいたいと思います。

▲横山拓也作・演出『あつい胸さわぎ』 撮影：木村洋一

▲横山拓也作・演出『あつい胸さわぎ』 撮影：木村洋一

1 第 12 回長崎定期演奏会 第 27 回大村定期演奏会

認定特定非営利活動法人 長崎 OMURA 室内合奏団

助成金額　601 千円

活動概要

長崎県内唯一のプロオーケストラとして活動する長崎 OMURA 室内合奏団は、長崎県央に位置するシーハットおおむら（さくらホール）を拠点に、県内在住及び出身演奏家等を中心に結成。ホールでのコンサートの他、大村市内の公民館や寺院など各所で月に一度、「まちかどコンサート」を開催。また、「スクールコンサート」や「弦楽セミナー」などの青少年育成事業にも精力的に取り組んでいる。“ 指揮者を持たない室内オーケストラ ” のアイデンティティのもと、“ プログラムの年間シリーズ化 ” と “ 世界初演 ” の活動によって長崎県民のクラシック音楽への興味を深め、さらなるファンを獲得してきた。これまで定期演奏会を、本拠地大村市で 2 回、長崎市で 1 回の年間 3 回行っていたが、今年は長崎市での演奏会を 1 回増やし、年間 4 回の開催を実現。長崎県民への文化芸術の普及・発展を図るべく、より充実した質の高い活動を提供するよう努めている。

▲第 12 回長崎定期演奏会

▲第 27 回大村定期演奏会

助成を受けて

助成を受けた「第 12 回長崎定期演奏会、第 27 回大村定期演奏会」では、世界的ヴァイオリニスト・堀米ゆず子氏を招へいし、一流音楽家と長崎 OMURA 室内合奏団の共演を長崎の皆様にお聴きいただくことが出来ました。知名度の高いソリストとの共演は、クラシックファンのより一層の関心を集めるとともに、当団の演奏家たちのモチベーションを引き上げ、音楽性の向上にもつながったと実感しています。活動テーマの “ プログラムの年間シリーズ化 ” については、5 月公演でモーツァルト交響曲第 40 番、12 月公演で第 41 番と連続性を持たせ、“ 世界初演 ” については、アーティスティック・アドバイザーである松原勝也（東京藝術大学教授）が当団のために編曲したバッハのオルガン曲を発表しました。

首都圏と比べると楽団数や公演数が少ない地方自治体においても、一流の音楽家の生演奏、上質の音楽に触れる機会を提供し、県民のクラシック音楽への興味を深め、地域の文化芸術の発展に寄与すべく活動しています。より多くのお客様に定期演奏会にご来場いただくために、クラシック初心者の方のご来場のきっかけとなるよう、演奏会のプログラムに合わせて、作曲家やソリストについて、曲の聴きどころなどをご紹介する「クラシック音楽入門講座」を事前に開講する工夫も行っています。“ 指揮者を持たない室内オーケストラ ” という当団の特色を活かしつつ、これからも様々なジャンルへ挑戦し、さらなる音楽性の向上に努めるとともに、地域の新人音楽家との共演機会を設けるなど、新人音楽家の育成も行なっていきたいと考えています。

認定特定非営利活動法人 長崎 OMURA 室内合奏団
〒 856-0820　長崎県大村市協和町 703 番地 1（2F）
Tel: 0957-47-6537　e-mail: oce02@omurace.or.jp
URL: https://www.omurace.or.jp/

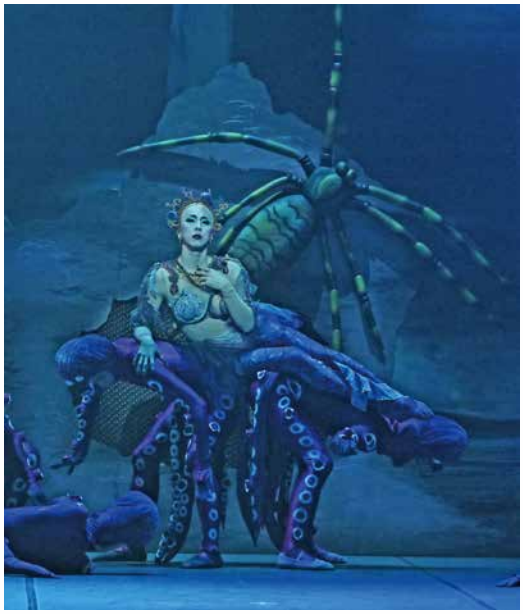
2 2019年 地主薫バレエ団公演『人魚姫』

地主薫バレエ団

助成金額　4,849千円

活動概要

大阪府吹田市にて1988年に創立した地主薫バレエ団は、2018年に創立30周年を迎え、気持ちも新たに作品創りに取り組んでいる。そのスタートとして、2016年にバレエ団の完全オリジナル作品として上演した『人魚姫』を2019年11月5日、大阪フェスティバルホールにて再演。演出・振付を改訂し、新たにプロジェクションマッピングを取り入れ、物語がよりわかりやすく伝わるよう努めた結果、好評を博し、入場率95%を超え、文化庁芸術祭では大賞を受賞した。



▲撮影：Fumio+Obana(OfficeObana)

助成を受けて

2016年初演の『人魚姫』を「もう一度練り直したい、前回よりもグレードアップした作品で、観客の皆様にお伽の世界に無理なく入っていただき、感動をお届けしたい」と考え、申請させていただきました。本助成をいただけたことで、設備の整った会館での上演、プロジェクションマッピングの導入が可能となり、前回表現することが困難であった海や天国の場面での違和感を解決することができました。演出にも深みを持たせることができ、観客を物語の世界に引き込み、感動していただける作品が完成したことは、助成による大きな効果だと考えています。演目によって大きなホール上演を選択できるようになったことも、助成をいただけるようになってからです。ロシアから振付者や指導者を招へいすることも可能となり、団員の質の向上に繋がり、文化庁芸術祭、大阪文化祭、日本照明家協会などから個人や団が多数の賞を受賞することができました。

▲撮影：Fumio+Obana(OfficeObana)

地主薫バレエ団は、バレエという芸術を通して、人々が心豊かな生活を送るための一端を少しでも担えたらと考え、公演を行ってまいりました。舞台を観ていろいろな経験をすることで、子どもや若者には、物事を多方向から考える力を養い、未来を生き抜く意欲や希望を感じてもらえるのではないでしょうか。一人一人が心豊かに生きること、それが積み重なって幸せな良い社会になっていくのだと考えます。

創立時は資金も乏しく、理想と現実の狭間におりましたが、新しいバレエ団だからこそできる作品の選択、アイディアで「老若男女に関わらず、バレエを観たことのない方にもわかりやすく楽しめるバレエ」を目指し、努力してまいりました。助成をいただき8年、毎年頭を悩ませつつ、助成金を100%生かして、古典だけでなくコンテンポラリーにも挑戦し、バレエ団のレパートリーとして自信が持てる作品も生まれました。今後も助成金を活用して公演を行い、いただいた助成を世の中に最大限還元していけるように努力したいと思っています。

地主薫バレエ団
〒564-0053　大阪府吹田市江の木町27-16
Tel: 06-4977-0095　e-mail: company@jinushi-ballet.com
URL: http://jinushi-ballet.jp

3 『Alcestis — a strange episode アルケスティス異聞』

一般社団法人 清流劇場

助成金額　1,178 千円

活動概要

▲『Alcestis －a strange episode アルケスティス異聞』
撮影：古都栄二（(有) テス・大阪）

清流劇場の目標は「清濁を併せ呑んで、尚、清流たらんとする」。舞台芸術に携わる者として人生の光と闇をしっかりと見つめ、「それでもやはり、人間は素晴らしい。人生は素晴らしい」という人間讃歌の舞台創作を目指して 1996 年に設立された。国際演劇祭への招へい参加や海外戯曲の翻訳上演、ギリシャ古典劇の上演、海外からの俳優招へいによる共同創作など、国際的な公演活動も行うほか、一般の方も参加できる「ギリシャ劇勉強会」を年に 10 回実施。実演家のみならず、研究者や別分野の芸術家との多様な交流を通じ、新たな価値観や異なった意見に触れられる機会を持ちながら、「人」や「社会」について深く考えられる作品創作に取り組んでいる。

本作は、エウリピデス作『アルケスティス』を素材に新たな解釈を施した改作劇。2019 年 7 月に一心寺シアター倶楽（大阪府大阪市）にて 6 回の公演が行われた。

▲『Alcestis －a strange episode アルケスティス異聞』
撮影：古都栄二（(有) テス・大阪）

助成を受けて

私たちがギリシャ劇を取り上げるのは、そこで語られる人間生活の簡素にして強靭な骨組みを体験するためです。細分化し先鋭化した現代社会だからこそ、古典劇（西洋演劇の原点）であるギリシャ劇に立ち返り、そこを起点に現代の人間生活の諸相を捉えることが必要であり、その上演意義も大きいと考えています。今回、助成を受けたことにより、舞台装置や小道具、衣装などにこれまで以上に予算を割いて、演出効果を高めることが出来ました。また広報宣伝をより大きく展開させることで、今まで以上に幅広い年齢層の観客に観劇していただき、好評を得ることが出来ました。

エウリピデスの『アルケスティス』の上演は世界的にも珍しく、今回が本邦初演でした。日本の観客に、ギリシャ劇の新たなイメージを持つ貴重な機会を与えられたと自負しています。原作『アルケスティス』に描かれた人間の生死をめぐる葛藤、世代間また男女間の考えの相違、見栄、それらが生み出す家庭の悲喜劇、さらに加えて『異聞』として「新しく生きること」に目覚めたアルケスティスを描き足すことによって、観客にとっても「固定観念にとらわれずに生きる」という考えを巡らせる一つの機会になり、現代人にも通じる身近な作品としてご覧いただけたと考えています。

劇場は、新しい価値観に触れることのできる場所であり、異なる価値観に出会える場所です。そのことを胸に、劇場に、また文化芸術に携わる者として、多様な価値観を広く市民に提供できるよう、社会的使命を果たしていきたいと考えています。今後もさまざまな活動を通して、市民の心を豊かにする作品の発信に取り組んでいきます。

一般社団法人 清流劇場
〒661-0014　兵庫県尼崎市上ノ島町 2-37-7
Tel: 06-6429-8387　e-mail: info@seiryu-theater.jp
URL: https://seiryu-theater.jp

4 第五回あべの歌舞伎「晴の会（そらのかい）」公演

あべの歌舞伎上演実行委員会

助成金額　3,990 千円

活動概要

大阪府大阪市の南に位置する天王寺・阿倍野エリアで上方歌舞伎を育てることを目指し、2015 年に開始した「あべの歌舞伎」。松竹・上方歌舞伎塾第一期卒業生の片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎により結成された「晴の会」が毎年公演を行い、平成 29 年度には、将来の大阪文化を担う若手芸術家に対して贈られる「咲くやこの花賞（演劇・舞踊部門［歌舞伎］）」を受賞。上方歌舞伎の普及、発展と地域活性化の原動力となっている。

人間国宝である片岡仁左衛門氏、片岡秀太郎氏を監修に、演出は山村流六世宗家・山村友五郎氏を迎え、2019 年は『肥後駒下駄（ひごのこまげた）』を 67 年ぶりに復活上演し、8 月 2 日から 5 日まで、近鉄アート館にて 7 回公演を行った。

▲第五回あべの歌舞伎「晴の会」公演　『肥後駒下駄』より

▲第五回あべの歌舞伎「晴の会」公演　『肥後駒下駄』より

助成を受けて

あべの歌舞伎では、三方を客席に囲まれた近鉄アート館の舞台を使った上演を続けており、空間に合う上方歌舞伎らしい作品の選定、お客様と一体となって楽しんでもらえる歌舞伎の創造を心がけています。上方歌舞伎の継承と発展を目指して活動していますが、歌舞伎の制作には莫大な経費がかかります。長唄・三味線・鳴物などの生演奏、大道具・小道具・衣裳・かつら、それらを裏で支える着付け・床山など多くの裏方さんも不可欠で、助成金による活動のサポートは大きな支えとなりました。

今回復活上演した『肥後駒下駄』は資料が少なく、台本づくりから苦労しましたが、助成金を活用して太夫と太棹三味線の生演奏を入れたことで登場人物の心情を深く表現することができ、これまでにない情感が生まれたと高い評価をいただきました。片岡仁左衛門氏、片岡秀太郎氏の情熱のこもった厳しい指導のおかげで、この 5 年間に若手の歌舞伎俳優たちが大きな成長を遂げ、上方歌舞伎の面白さや味わい深さも、幅広いお客様に知っていただくことが出来たと考えています。

活動を続けてきた 5 年間で地域のネットワークが大きく広がり、あべの歌舞伎は地域を繋ぐ役割も果たしてきました。子どもの情操教育の一環として、将来の歌舞伎ファンを育成すべく、親子で気軽に歌舞伎を見ていただける環境も整えています。今年からはオンライン配信も実施しますので、これを機に日本国内はもとより、海外でも楽しんでもらえるコンテンツを創っていきたいと考えています。

今後の大きな課題は、上方歌舞伎を継承する人材の育成です。この先、長きにわたって上方歌舞伎を継承していくためには、「晴の会」メンバーが卒業した「上方歌舞伎塾」のような機関が必要です。そうした課題も視野に入れながら、あべの歌舞伎「晴の会」を発展させていきたいと思っています。

あべの歌舞伎上演実行委員会
〒 542-0071　大阪市中央区道頓堀 1-7-21　中座くいだおれビル地下 1 階　道頓堀 ZAZA 内
Tel: 06-6212-3005　URL: http://www.kintetsuartkan.jp/

5 ヒロシマ アート ドキュメント 2019 展

CREATIVE UNION HIROSHIMA

助成金額　796 千円

活動概要

1994 年、「ヒロシマから芸術の発信を」をテーマに国際的な展覧会の開催を目的として団体を結成。以降、毎年広島県広島市内で現代美術展を開催、本展は 26 回目にあたる。原爆にまつわる悲劇の記憶を現代美術という新たな創造のエネルギーに変換することを主旨とし、地元作家・学生、海外の作家と共に現存する被爆建物の中で実験的作品に挑戦してきた。ヒロシマをテーマに国際的な美術活動に展開させることも目的としている。

2019 年は 5 月 26 日から 6 月 5 日まで、国内外 4 名の現代美術家による被爆建物（旧日本銀行広島支店）における屋内展示を行い、会場の歴史性を踏まえた全 11 点を出品。オープニングでは張夏翡（チャン・シァ＝フェイ）によるパフォーマンスを上演した。

▲© HAD 2019

▲© HAD 2019

助成を受けて

結成当時、美術への援助は企業がメセナ活動として行っていましたが、その後企業からの寄付は厳しくなりました。本助成により諸外国からアーティストを招へいするための渡航費が捻出できるメリットは大きく、現場で新しい作品の構成、制作が可能となります。近年はインスタレーション作品への経費も本助成で認められるようになり、質の高いインスタレーションに挑戦できるようになりました。日本を代表する本基金から助成を受けることは、海外に対する本展の宣伝にもなっています。

今回はキュレーターとしてパスカル・ボース（仏）が作家選考と現場構成にあたり、和太鼓との共演で日本統治下の台湾時代に思いを馳せるパフォーマンスを披露した張夏翡（仏・台湾）、巨大タンクの廃材を電動で動く彫刻とした野村敦（日本）、時代と共に変化する世界の地図に注目し架空の地図を作った的場智美（日本）、写真を布や板に転写したインスタレーションを発表した田村尚子（日本）と、4 人の作家が出品。現地での印象を受けて各アーティストが作品を構築し、いずれも質の高い内容に仕上がりました。1994 年の第 1 回目の開催以来、26 年の間に作家の表現方法は激変しましたが、本活動の理念が次世代作家たちに受け継がれていることを実感しています。

展示会場としている被爆建物は広島市の文化財のため、使用には厳しい制限がありますが、建物見学の観光客や、平和学習のために修学旅行生も訪れる場所で多くの目に触れる機会がある展示開催に大きな意義があると考えています。活動を重ねてきたことで我々が目的とする「ヒロシマから芸術の発信を」が国際的にも認められており、今後も海外との絆を大切に、本活動を継続、発展させていきたいと思います。

CREATIVE UNION HIROSHIMA
〒 734-0007　広島県広島市南区皆実町 6-18-31
Tel: 082-254-1121
e-mail：info@hiroshima-art-document.com

6 飛生芸術祭 2019「まち × ひと × アート」

飛生アートコミュニティー

助成金額　610 千円

活動概要

1986 年、北海道白老町に位置する旧飛生小学校の廃校活用を目的に飛生アートコミュニティーが設立される。十数人のアーティストが共同アトリエとして使用し、年に複数回、展覧会や音楽会を実施していた。2002 年に現在の代表である国松希根太ら、第二世代のアーティストが加入したことから活動が再び活性化し、2009 年より年に一度のペースで飛生芸術祭を実施。2011 年より「飛生の森づくりプロジェクト」「TOBIU CAMP」などの活動をスタートし、アートと自然と地域を結びつけ、人々が集まるコミュニティーとしてより開かれた場所になっていった。現在は月に一度以上、北海道内の年代や世代を超えた人々が集まるプラットフォームとしても機能している。

飛生芸術祭 2019 の本プログラムでは、芸術を通して「地方で生きるということ」をテーマに、人口減少による衰退が進む駅前商店街を中心に、身体表現、演劇、音楽、朗読、影絵などを要素として持ち帰り、リサーチを繰り返しながら、「まちとひと」についての芸術作品を創作。2019 年 9 月 8 日から 19 日にかけて、白老コミュニティーセンターなど計 3 カ所の会場で公演を行った。

▲雁月泡雪 -credit-yixtape

▲町の屋根 -credit-yixtape

助成を受けて

我々の活動拠点である白老町は人口約 1 万 6 千人の小さな町で、アートが地域に浸透している環境ではありませんでした。住民の生活にアートを根差すには、いきなり展覧会や公演を行っても難しいため、順序を追って発信すれば、上手くいくのではないかと考えました。まずは地域の資源とアートを組み合わせて作品内容を工夫すること。そして入場料を安くし、気軽に観覧できるようにすること。これらを両立するための予算が必要となり、助成を申請させていただきました。今回はそのおかげで地域の皆さんに気軽にご来場いただくことが出来、作品の質の高さと観覧しやすさを兼ね備えた活動となりました。

今回の 3 演目、平原慎太郎氏（OrganWorks）の作･振付による『町の屋根』、渡辺たけし氏（蘭越演劇実験室）の作・脚本による『雁月☆泡雪』、羊屋白玉氏（指輪ホテル）の作による『トビウ小 7 年 2 組萩野篇』は、いずれも作者が地域住民に事前取材を行い、そこから題材を得て生まれた作品です。この活動に関わった多くの住民が芸術文化に関心を抱き、また他分野のアーティストに多く関わってもらったことにより、様々な側面から芸術の魅力を発信することが出来ました。長期間の開催で、より多くの町民とふれあうことが出来たことも大きな成果と感じています。

今後も地域住民に創作時点から関わりを持ってもらい、アートへの理解を少しずつ深めてもらうことを目的に活動していきます。その過程が最終的に作品となり、観覧者の心に何かしらの形で届いた時に公益性が生まれるのではと考えます。地域にあるべき理想の活動の姿を模索しながら住民の生活に根差しつつ、地域の光と闇をアートによって何らかの形で変換・昇華し、提示することを続けていきたいと考えています。

飛生アートコミュニティー
〒 059-0642　北海道白老郡白老町字竹浦 520
Tel: 080-5591-0098　e-mail: hm@racka-sapporo.com
URL: https://tobiu.com

7 第 20 回東京フィルメックス／TOKYO FILMeX 2019

認定 NPO 法人 東京フィルメックス

助成金額　9,196 千円

活動概要

「映画の未来へ」を掲げ、2000 年にスタートした国際映画祭。新しい映画の流れを提案し、アジア各国から多様な作家を紹介している。2018 年 11 月より認定 NPO 法人化。映画の限りない創造性と未来の可能性を追求し、人間性や社会性を深く表現する映画文化は暮らしに潤いをもたらすという理念のもと、「創造性溢れる映画作家を育てる」映画祭を打ち出している。

第 20 回を迎えた 2019 年は、11 月 23 日～ 12 月 1 日、東京・有楽町朝日ホールほか 6 会場にて全 31 作品・41 回を上映、総入場者は 12,031 人を数えた。受賞作は、最優秀作品賞『気球』（中国／ペマツェテン監督）、審査員特別賞『春江水暖』（中国／グー・シャオガン監督）、スペシャル・メンション『昨夜、あなたが微笑んでいた』（カンボジア・フランス／ニアン・カヴィッチ監督）、『つつんで、ひらいて』（日本／広瀬奈々子監督）、学生審査員賞『昨夜、あなたが微笑んでいた』、観客賞『静かな雨』（日本／中川龍太郎監督）。

▲©白畑留美、明田川志保、穴田香織 / TOKYO FILMeX

▲©白畑留美、明田川志保、穴田香織 / TOKYO FILMeX

助成を受けて

東京フィルメックスは作り手の作家性が反映された旬のアジア作品を選定し、日本の映画鑑賞者に積極的に紹介することで、作り手（特に監督）を支援する事業を行っています。設立初期から、タイのアピチャッポン・ウィーラセタクン、韓国のキム・ギドク、中国のジャ・ジャンクーなど、後にカンヌ・ヴェネツィアで最高賞を受賞する作家達を紹介し、高い評価を得てきました。

映画祭製作の準備として、会場を借り、映画の上映素材を取り寄せ、プロフェッショナルに日本語字幕翻訳を依頼し、優れた作品群を日本の観客に届けるための広報活動を行い、上映後に行う作り手と観客との対話のために外国から関係者を招へいし、映画専門の各国語通訳者を手配するなどの準備費用が必要となります。これらの企画のコストはチケット代のみでまかなうには観客の負担が大きくなることから、通常の映画料金で広く公衆に向けて事業を実施するため、本助成を活用しました。

コンペティションでは最優秀作品賞常連のペマテツェン監督を除き、グー・シャオガン監督、ニアン・カヴィッチ監督は無名の作り手によるデビュー作です。2 年連続コンペ上映の広瀬奈々子監督、東京フィルメックス初参加の中川龍太郎監督作品は、日本映画の現在地を世界に発信する機会となりました。また、阪本順治監督デビュー 30 周年として代表作の回顧上映を行い、その足跡を検証したことは、特に若い世代にとって貴重な機会を提供したと思います。

本事業では、「文化の多様性」を担保し、かつ映画の新進作家の育成を担ってきたと自負しています。長期的な視点に立ち、アジア・日本の映画作家を育てる姿勢を堅持し、継続していきます。

認定 NPO 法人 東京フィルメックス
〒 163-0245　東京都新宿区西新宿 2-6-1　新宿住友ビル 45F
Tel: 03-6258-0333　e-mail: npo@filmex.jp
URL: https://filmex.jp/

8 特集上映：岡本喜八監督特集 映画（シャシン）に刻まれた律動（リズム）

公益財団法人 山口市文化振興財団

助成金額　756千円

活動概要

山口情報芸術センター［YCAM］では、観客に多彩で豊かな映画芸術、映像文化に幅広く触れてもらうため、様々なジャンルや地域の映画、映像作品を上映。山口で上映される機会の少ない作品を中心にセレクトし、より深い洞察や理解を促すための特集上映や関連イベントを開催している。

2019年度は、戦後の日本映画を支えた一人でありながら娯楽性をとことん追求し、大衆に愛された映画史の異端児、岡本喜八監督が遺したバラエティ豊かな全39作品の中から、12作品をピックアップ。自身の戦争体験がもたらした悲劇的側面と、観客を喜ばせるための喜劇的側面が同居する岡本作品の魅力に迫った。10月3日～20日、YCAMにて計24回上映。トークイベントも併催。

上映作品：『結婚のすべて』『独立愚連隊』『暗黒街の対決』『戦国野郎』『江分利満氏の優雅な生活』『ああ爆弾』『殺人狂時代』『日本のいちばん長い日』『斬る』『肉弾』『座頭市と用心棒』『ダイナマイトどんどん』

▲提供：山口情報芸術センター［YCAM］
撮影：谷 康弘

▲提供：山口情報芸術センター［YCAM］
撮影：谷 康弘

助成を受けて

一人の監督や俳優に焦点を当て、一定期間に複数作品を上映する活動においては、より多くの作品貸し出しや、関係者にトークイベントにお越しいただくなど、充実した上映活動とするための費用が必要となります。そこで本助成を活用させていただきました。

今回の上映に当たって課題だったのは、岡本喜八監督作品のコアなファンだけではなく、若い層へのPRをいかに行うかでした。その観点から開催したトークイベントでは、映画評論家の山根貞男さんと岡本監督のご家族（娘の真実さん、孫の理沙さん）をゲストに迎え、戦争映画だけではないラインナップの幅広さと、ご家族から見た岡本監督像をお話しいただきました。最も大きな収穫は、作品の時代背景と共に、戦争について考える機会を提供する場となったことです。

岡本喜八監督作品を地方で鑑賞する機会は大変珍しく、全ての作品を鑑賞する方が多くいらっしゃいました。今まで岡本作品を観たことのなかった若い層の方は、1作品を観て他の作品も観たくなったという方も多く、岡本作品ならではのストーリー展開を大いに楽しんでいただけたようです。

民間上映館のない山口市では、公共の上映館であるYCAMの役割は大きく、映画を通じて文化に触れる層を増やし、映画を通じた鑑賞教育も推進しています。今までの価値観を変えるほどの影響力を持つような作品を映画館で共有し、深める機会を提供できると感じています。昨今の映画のネット配信が増えている状況の中、今後はネット配信との棲み分け、共存をいかに有効的に行うかを考えながら、スクリーンでの鑑賞体験、さらにフィルムという存在を「楽しんでもらう」上映を企画していきたいと考えています。

公益財団法人 山口市文化振興財団
〒753-0075　山口県山口市中園町7-7
Tel: 083-901-2222　e-mail: information@ycam.jp
URL: https://www.ycam.jp/

9 North JAM Session 2019

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

助成金額　7,000 千円

活動概要

公益財団法人札幌市芸術文化財団では「札幌がジャズの街になる」をキャッチコピーとし、2007 年からジャズフェスティバル「サッポロ・シティ・ジャズ」を実施。行政、市民、民間企業とのタイアップで、ジャズライブや多様なイベントを展開している。財団施設である札幌芸術の森の野外ステージでは、毎年夏にジャズコンサート North JAM Session を開催。国内外で活躍するトップミュージシャンの演奏と共に市民のアマチュア演奏家の発表機会を設け、札幌におけるジャズ音楽の普及・振興を図っている。

2019 年は 8 月 25 日に開催。ラリー・カールトン（with リチャード・ボナ）、熱帯ジャズ楽団（with マリーン）、小林香織というトッププロの演奏のほか、札幌に根ざした、もしくは縁のある活動を行うバンド 4 組が出演。期間中には札幌市内のジャズスクールの子どもたちを対象にワークショップも開催した。

▲プログラムの最後を飾ったラリー・カールトン

▲カルロス菅野～熱帯 superjam の演奏でスタンディング

助成を受けて

毎年夏に 3,000 人近くの観客にお楽しみいただいている North JAM Session では、トップミュージシャンの北海道への招へいに係る出演料と移動費、ステージの舞台・照明・音響等の制作費、宣伝費等の経費捻出のため、入場料と自己財源に加えて協賛金獲得にも努めています。とはいえ野外ステージ公演に係る舞台制作費と舞台専門スタッフの人件費等を賄うには大幅に不足するため、従来より当事業の趣旨をご理解いただいている、本助成金に申請させていただきました。

助成によって、今回はラリー・カールトンとリチャード・ボナという 2 大スターの共演や、日本で高い人気を誇る熱帯ジャズ楽団にボーカルでマリーンをゲストで招へいするなど、華やかで聴きごたえある内容が実現し、低廉な入場料金に抑えて公演を実施することができました。また芸術の森の施設の特徴を生かし、市民参加で縄文太鼓を手作りし、世界的ピアニスト、デビッド・マシューズが音楽監督を務める札幌のジャズビッグバンドと共演するという当地ならではのユニークな活動を行い、一大セッションとして披露することができました。

地元札幌や北海道のミュージシャンにとっては音楽活動の振興に繋がる参加・発表の機会を設け、また一般市民が鑑賞だけでなく、優れたミュージシャンと共演できるプログラムを含めるなど芸術文化に触れる可能性を探り、感動や喜びを感じてもらえる企画を提供し続けることが、当事業が持つ大きな公益性だと感じています。大規模な事業には制作経費がかかるため、助成がなければ実現不可能な場合が多いですが、今後も助成金を含めた資金獲得に努め、持続可能な方法も試しながら、公益性の高い事業を継続していきたいと考えています。

公益財団法人 札幌市芸術文化財団
〒 005-0864　札幌市南区芸術の森 2-75
Tel: 011-592-4125　e-mail: contact@sapporocityjazz.jp
URL: 札幌芸術の森 https://artpark.or.jp/
サッポロ・シティ・ジャズ https://sapporocityjazz.jp/

10 森田恒友展

埼玉県（埼玉県立近代美術館）

助成金額　2,424 千円

活動概要

埼玉県熊谷市出身の画家・森田恒友（1881-1933）の画業をたどる回顧展。埼玉県立近代美術館では、埼玉ゆかりの画家として恒友の作品を継続的に収集し、洋画と日本画を約 100 点収蔵。回顧展の開催は、1991 年の「森田恒友とその時代」展以来、約 30 年ぶりとなる。恒友は東京美術学校で洋画を学び、渡欧してセザンヌに強く影響を受けた作品を制作。しかし帰国後は、水墨表現が日本の風景に適していることを見出し、身近な自然をとらえた清澄な日本画を発表した。本展では洋画と日本画の主要作品に加え、未発表の作品および雑誌、書簡等の資料を多数紹介し、その画業を検証。恒友の全貌を広く紹介し、地域の文化に新たな光を当てた。2020 年 2 月 1 日～ 28 日、埼玉県立近代美術館にて開催。

▲森田恒友展 展示風景

▲森田恒友展 展示風景

助成を受けて

久々となる森田恒友の回顧展を開催するにあたり、国内各地から出品作品を借用して内容を充実させたい、また関連事業の開催やワークシートの作成等を行いたいとの思いから、本助成を申請しました。幸い、ご遺族や所蔵者の方々の全面的なご協力を得て、出品交渉や展覧会準備は順調に進み、無事に開幕を迎えましたが、会期が新型コロナウイルスの感染拡大時期と重なったことは、大変残念でした。2 月 1 日～ 3 月 22 日の会期予定は、2 月 29 日より臨時休館となり、会期の半分を残して終了。休館が急に決まったため、展覧会を楽しみにしていた方々にご来場いただけなかったこと、会期後半のみの展示予定だった日本画作品をご覧いただけなかったことが悔やまれます。

不測の事態には見舞われましたが、助成によって関西方面など遠方からの出品が可能となり、約 250 点の豊富な作品資料により、文芸誌との関わりも含め、幅広い分野に残した恒友の足跡を紹介できました。その画業を新たな視点から検証し、展覧会で紹介したことは、多くの方に地域ゆかりの画家の魅力を知っていただく機会になったと思います。また、本展の巡回館でもある福島県立美術館の担当学芸員の方をレクチャーの講師に招き、恒友が度々訪れた会津地方での活動についてお話しいただきました。他の地域と協力して検証することにより、複数の視点から画家の魅力をとらえ、発信することができました。

今後は、展覧会開幕後に新たに発見された恒友の資料を紐解き、調査研究をさらに進めると共に、臨時休館による閉幕を補う意味も込め、いつか当館のコレクション展等で、恒友の作品をまとめて展示する機会を再び設けられればと思います。しばらく回顧展を開催できていない埼玉ゆかりの画家の展覧会も企画し、県立美術館として地域文化の掘り起こしに貢献できる活動を継続していきたいと考えています。

埼玉県（埼玉県立近代美術館）
〒 330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1
Tel: 048-824-0111　e-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp
URL: https://pref.spec.ed.jp/momas/

11 廿日市市宮島町歴史的町並み保存啓発活動

廿日市市

助成金額　985千円

活動概要

世界文化遺産、厳島神社を有する歴史と文化の町、広島県廿日市市宮島町。廿日市市では、伝統的建造物群保存地区の指定にあたり、宮島町の歴史的な町並みの魅力や特徴を市内外に発信することにより、市民が町並みの魅力や価値を認識し、主体的に町並み保存活動に取り組む素地を醸成する啓発活動を行った。伝統的建造物群保存地区の指定（2019年6月13日）を機に、7月20日に記念式典（シンポジウム）を開催（宮島セミナーハウス成風館）。5月～9月にかけて空撮も含めて撮影した町並みの写真・動画を活用し、写真展の開催やリーフレットの作成を行い、さらに町並み市民講座等での上映や、インターネットやSNSを通じて市内外へ「宮島の歴史的な町並みの魅力」の効果的な発信に役立てている。

▲廿日市市宮島町伝統的建造物群保存地区指定記念シンポジウムの様子

▲廿日市市宮島町伝統的建造物群保存地区指定記念シンポジウムの様子

助成を受けて

厳島神社周辺の門前町は、伝統的な建造物が建ち並ぶ美しい町並みであるにもかかわらず、厳島神社に注目が集まり、地域に住む住民でも町並みの魅力になかなか気づいていないという状況でした。そこで、伝統的建造物群保存地区の指定を機に、宮島の町並みの魅力を過去の歴史をひもときながら広く認知してもらう必要があると考え、その趣旨に合致する本助成を受け、本活動を実施することとしました。

シンポジウムでは、過去に宮島の調査を行った大学教授に講演をいただき、宮島町家の特異性、希少性が改めて浮き彫りになり、来場者からも「初めて知った」「それほどの魅力だったとは」といった感想を得ることができました。また、伝建地区内の古写真と伝統的町並み普及促進業務で同じ位置から新たに撮影した写真を照らし合わせた「今昔写真展」等、町並み写真や動画をシンポジウムで紹介するだけでなく、市民センターや図書館の展示ブースといった様々な機会で展示等を行い、宮島の町並みの魅力を発信することができました。撮影した写真を使用したリーフレットは、現在も伝統的建造物群保存活動の普及促進や、外国人観光客を始めとする多くの観光客に対する町並み紹介等のために活用しています。

宮島の町並みは地域の宝であり、後世に残していくべき文化財です。その価値や魅力を広く発信し、地域をあげて町並み保存活動に取り組むことは、大きな公益性に繋がると考えています。そのためには定期的な情報発信が必要であり、事業実施のうえで大きな力となる本助成金も機会があれば活用させていただきながら、今後も町並み講座等を実施していきたいと思っています。

廿日市市
〒738-8501　広島県廿日市市下平良1-11-1
Tel: 0829-30-9183　e-mail: toshikeikaku@city.hatsukaichi.lg.jp
URL: https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/soshiki/51/46894.html

12 福野神明社祭礼における横町曳山巡行及び保存伝承活動

横町曳山保存会

助成金額　6,120 千円

活動概要

富山県南砺市福野地域の横町地区では、毎年福野神明社の春季祭礼に合わせて曳山巡行を行っている。しかし、近年４つある鉄製車輪のゆるみが激しくなると共に車軸に亀裂が見つかり、円滑な巡行に支障を来すようになっていた。また、車輪の漆塗りが剥げ、細かな部材が取れている箇所もあった。保存会では市の指定文化財（有形民俗文化財）としての価値を損なうことなく、曳山の保存伝承を進めていくためには車輪の修繕が必要と考え、総会で了解を得ると共に、市文化・世界遺産課とも協議のうえ、４つの車輪と車軸の修繕を決定。2019 年５月３日に福野神明社祭礼において曳山巡礼を行った後、高岡地域文化財等修理協会による修繕を行った。修繕期間は同年５月～ 2020 年３月。錺（かざり）金具修理、車軸工事、木工作業、塗り作業、焼きばめ、塗り仕上げ作業等を経て、３月 23 日修繕完成。

▲焼きばめ作業

▲試し引き

助成を受けて

今回の修繕では南砺市から文化財修理補助として３割の補助を受けることになり、不足分は保存会の積立金と寄付金で賄おうと考えていましたが、南砺市文化・世界遺産課からの助言もあり、本助成を申請しました。

横町曳山は南砺市の有形民俗文化財でもあり、以前の装飾や構造を忠実に残して修理することが課題でした。大規模な車輪の修理は 100 年近く行われていませんでした。修理を担当していただいた高岡地域文化財等修理協会から、「車輪の漆の下から以前の装飾が出てきた。古い写真を確認して以前の装飾を確認してほしい」との要望があり、関係者が協力して図書館や曳山の世話をしていた方の家を訪問し写真を探した結果、以前の装飾を確認することができ、無事に修繕することができました。

車軸と車輪の搬出・搬入作業は平日に行われましたが、多くの氏子が進んで解体、部品保存、組み立て作業に参加しました。2020 年５月の曳山巡行で修繕された曳山を見ることを楽しみにしている氏子も多かったのですが、新型コロナウイルス流行の影響でやむなく曳山巡行を中止せざるを得なくなりました。しかし、助成を受けた今回の修繕のおかげで、今まで以上に曳山に対する関心を高めることができ、今後も横町地区の大切な曳山の行事を続けることができるようになりました。曳山は町内氏子の誇りであり、貴重な財産です。曳山巡行を毎年確実に行い、後世に伝統を継承していくことは、人口減、経費の負担といった問題等がありますが、祭りを通して、地域への親しみを持ち、よりよい思い出を作ったり、ふるさとを愛する心を育んだりすることに繋がっていると思います。これまで通り曳山の伝承に努めると共に、他町の曳山と連携し、南砺市福野地域に残る４台の曳山が揃って巡行できるようにしたいと考えています。そのために曳山の修繕は今後も必要であり、できれば助成金を活用していきたいと思います。

横町曳山保存会
〒 939-1507　富山県南砺市二日町 444　畠中方

13 KOBE スティールパンカーニバル 2019

アスタ新長田スティールパン振興会

助成金額　419 千円

活動概要

阪神・淡路大震災の被災地域において地元住民の手によって誕生し、その後規模を拡大しながら継続してきた西日本最大のスティールパンイベント。カリブ海の島国トリニダード・トバゴの国民的な打楽器スティールパンという新しい文化を、地域に根づいた復興のシンボルとして広く発信し、イベントの実施を通して地域活性化に貢献すると共に、楽器やカリブの楽曲の魅力を伝えることを目的とする。

19 年目を迎えた 2019 年は、地元のスティールパンオーケストラ「FANTASTICS」を中心に、全国から集まったスティールパン演奏者、団体がカリプソやソカ、日本のポップス、神戸の震災ソング「しあわせ運べるように」等、様々なジャンルの曲を演奏。公演は 9 月 15 日、兵庫県神戸市須磨区の須磨海浜公園時計台周辺特設ステージにて実施。

▲ KOBE スティールパンカーニバル 2019_FANTASTICS from 神戸

▲ KOBE スティールパンカーニバル 2019_Steelband Pandre from 徳島

助成を受けて

本事業は全国のスティールパン愛好家からも期待の大きい演奏会です。震災からの復興のシンボル、新しい文化を発信していく活動として根づいており、本イベントの実施を通して全国からの集客も見込めること等から、地域活性化にも貢献しています。その幅を広げ、継続・安定して実施していくために、音楽イベントには不可欠な音響設備の充実、特設会場の設置経費等、多くの費用が必要であり、本助成を 2012 年、2014 年以降は毎年受けています。助成によって特設ステージのクオリティを上げることができ、音響設備の充実が図れました。また野外ステージでの来場者の休憩スペースやスティールパン体験ブース等のテントにも工夫することができ、出演者、来場者双方の環境をより改善できました。

本事業は神戸有数の観光地、須磨海岸で開催する無料イベントであり、あらゆる世代、国籍の人が楽しめ、地元経営者の方々からの出店希望も多数あります。須磨海岸の再開発後の未来図にも本イベントが掲載され、地域の魅力を向上させる役割を担っています。もちろん音楽イベントとしてのクオリティも高く、本場トリニダード・トバゴのスティールパンサイトでも紹介されている他、トリニダード・トバゴのアーティストが来日公演を行った際には本イベントが会場の一つに選ばれたこともあり、遠く離れた地域がスティールパンを通して繋がることができました。文化と文化を繋げ、それを神戸はもとより各地からの来場者と共有し、楽しんでいただけるという点においても、高い公益性があります。

今後も地域との関わりを深め、演奏者のクオリティも上げ、「ここに来ればスティールパンやカリブの音楽を一日中楽しむことができる」日本最大のスティールパンイベントとして発展させていきたいです。

アスタ新長田スティールパン振興会
〒653-0041　神戸市長田区久保町 3-2-8
Tel: 078-631-5055（ヤマモトヤ内）　e-mail: fantastaff@gmail.com
URL: https://ja-jp.facebook.com/steelpanfanta

14 記念展「京都の北と南の織物 ―丹後の藤布（ふじぬの）と相楽木綿（さがなかもめん）―」の開催

丹後藤織り保存会・相楽木綿の会合同記念展実行委員会

助成金額　609千円

活動概要

▲ギャラリートーク藤布

京都府には、全国的に知られる京都市の西陣織や友禅染めだけでなく、京都府全体を見渡すと、北部丹後に丹後縮緬・藤布・木綿の裂き織りと刺し子、中部丹波に丹波木綿、南部山城には相楽木綿・麻布クロスといった、多彩な織物があることは知られていない。そこで、全国唯一の京都府指定無形文化財である丹後の藤織物（木綿以前の織物）と、近世の奈良晒の伝統を受け継ぎ、独特の絣技術と柄を特徴とする相楽木綿（木綿以後の手織物）という京都府南北の織物の合同作品展を、観光客が多く訪れる京都市内で開催した。京都府の多彩な織物文化を全国や海外に知ってもらい、京都府南北への観光拠点の拡大を図り、京都の織物産業の発展に寄与することを目指した。

記念展は2019年6月21日～25日に京都市中京区のしまだいギャラリーにて開催した。藤織り、相楽木綿作品等の展示のほか、ギャラリートーク、活動紹介ビデオ上映、大和機・藤績みの実演等も行った。

▲大和機機織実演

助成を受けて

京都にかつてあった北部の藤織りと南部の相楽木綿の復元と伝承活動を広く知ってもらうために、京都市内での記念展を企画していましたが、両団体とも非営利で活動しているため、広く皆さんに見てもらえる京都市内での開催に向けて、会場の選定や資金の捻出に思案していました。両団体の活動の起点となった京都府立丹後・山城郷土資料館に相談したところ、本助成金を教えていただき、応募しました。

助成によって、本展を京都市の中心部である烏丸御池のギャラリーで行うことができ、国内外の多くの旅行者にも立ち寄っていただけました。新聞等で大きく取り上げられたことで、多くの来場者で賑わい、それぞれの活動を広く紹介することができました。実演等も行ったことで、来場者からはこれらの技の凄さや、それによって作り出されるものに感動したとの声もあり、両団体の今後の活動に対する大きな励みとなりました。

両団体の活動は、途絶えかかっていた、あるいは一旦途絶えた地域の無形文化（技術）の伝承が大きな目的であるため、現在の産業構造とは相容れないところがあります。しかし、先人の知恵、手わざを伝えていくことは、地域の歴史、文化を守る意味で重要だと考えています。昨年度末には、相楽木綿が京都府の無形民俗文化財の認定を受けることができました。今後、先人たちの技術により近づけるように、各団体が切磋琢磨するとともに、伝承者を一人でも増やすための普及・育成活動にも、取り組んでいく予定です。また新しい展開が見えたときに、ぜひ助成金を活用したいと考えています。

丹後藤織り保存会・相楽木綿の会合同記念展実行委員会
〒619-0238　京都府相楽郡精華町精華台6-1　けいはんな記念公園水景園観月楼BF 相楽木綿伝承館
Tel: 080-6186-9233　e-mail: saganakamomen@gmail.com
URL: https://keihanna-park.net/guide/saganaka-momen/

15 名古屋フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会

公益財団法人 名古屋フィルハーモニー交響楽団

助成金額　67,084 千円（年間活動支援 5 活動 81,364 千円の内数）

活動概要

愛知県名古屋市を中心に活動し、“名フィル”の愛称で地元からも親しまれる名古屋フィルハーモニー交響楽団は、革新的な定期演奏会のプログラムや充実した演奏内容に定評があり、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。2016 年には日本を代表する指揮者・小泉和裕が音楽監督に就任。定期演奏会では毎年、ポピュラーな作品と演奏機会の少ない作品や現代作品をバランスよく揃え、集客と普及啓発の両立を図っている。以外にも有名作品を中心とする「市民会館名曲シリーズ」、障がいのある方を対象とした「福祉コンサート」、市内の学校を訪問する「名古屋市内小・中学校移動音楽鑑賞教室」など、バラエティに富んだ年間約 110 回の演奏会を開催している。

▲第 470 回定期演奏会　©中川幸作

▲第 476 回定期演奏会　©中川幸作

助成を受けて

助成は大きな支えとなっており、楽団の運営や演奏事業において、定期演奏会をはじめとする楽団根幹事業の公演制作費に余裕が生まれ、指揮者や共演者、楽曲など、より充実した内容での演奏会開催に向けた選択肢が広がっています。また、助成によって幅広い層の聴衆が求めやすいチケット料金に設定でき、結果、多くの聴衆に上質な音楽をお届けできることが何よりの還元と考えています。

2019 シーズンは〈マスターピース〉シリーズと銘打ち、誰もが知る人気作や有名作曲家の代表作をメインに、知られざる傑作や日本初演・世界初演作も含め、バラエティ豊かなプログラムをお届けしました。4 月の地元合唱団（岡崎混声合唱団＋岡崎高校コーラス部）の起用は、地域の音楽水準の高さを実証できた成功例と自負しています。名古屋市近郊自治体とも連携して各地でアウトリーチ活動も活発に行い、子どもたちへの指導や育成事業にも力を注ぐほか、25 歳以下の若い方々への Y 席やユース割引など、将来の音楽ファンの育成にも取り組んでいます。

邦人作曲家への委嘱作品を、外国人に指揮してもらうことで、日本の音楽創造水準の高さを示し、作品の国際的な普及も目指す「コンポーザー・イン・レジデンス制度」については、本年定期演奏会で取り上げた作品が、聴衆・演奏家・批評家からも好評を博し、尾高賞を受賞、また制度自体が名古屋フィル初のミュージック・ペンクラブ賞「現代音楽部門賞」を受賞するなど、大きな成果を上げることができました。

2021 年には楽団創立 55 周年を迎えます。今後も生演奏を主体としながら、同時に名古屋の街の魅力向上にも一役を担っていけるような、新たに配信を活用したプログラムも検討したいと考えています。

公益財団法人 名古屋フィルハーモニー交響楽団
〒 460-0022　名古屋市中区金山 1-4-10　名古屋市音楽プラザ 4F
Tel: 052-322-2774（代表）　e-mail: meiphil@nagoya-phil.or.jp
URL: www.nagoya-phil.or.jp

16 『リーズの結婚〜ラ・フィーユ・マル・ガルデ〜』

一般財団法人 牧阿佐美バレヱ団

助成金額　20,192 千円（年間活動支援 3 活動 36,370 千円の内数）

活動概要

高水準のダンサー、幅広い作品レパートリーを誇り、世界のバレエシーンの第一線で多彩な活動を展開している牧阿佐美バレヱ団。英国ロイヤルバレエの振付家サー・フレデリック・アシュトン卿が 1960 年に再振付して欧州ではメジャーである本作品は、日本では牧阿佐美バレヱ団が唯一上演許可を得てレパートリーとしている。今回はより質の高い公演を目指し、英国から指導者を招へいして作品の理解度、技術力、演技力向上を図った。地域の一般客に向け、特に親子でバレエ鑑賞の機会を持ってもらうために公演前には鑑賞教室、バックステージツアーを会場の文京シビックホールと連携して実施。その効果もあって想定を上回る入場者数となった。2019 年 6 月 8 日〜 9 日、2 回公演。

▲「リーズの結婚　ラ・フィーユ・マル・ガルデ」撮影：鹿摩隆司

▲「リーズの結婚　ラ・フィーユ・マル・ガルデ」撮影：山廣康夫

助成を受けて

英国ロイヤルバレエ団が初演当時から守り続けている本作品を、牧阿佐美バレヱ団が日本において伝承していくことに大きな意義を感じています。親しみやすいストーリーと多彩なダンスで幸せを感じ、クラシックバレエの素晴らしさと楽しさ、親しみやすさを堪能していただくことで、バレエファンがファンを呼んで観客を増やし、バレエ芸術の浸透の促進を図りました。ただしバレエ公演は舞踊手だけではなく、オーケストラ、大道具、衣裳、照明、音響、さらに振付家、指揮者、芸術監督、舞台監督、バレエミストレス、バレエマスターと、多くの人が関わる総合芸術ゆえに必要経費が多額になります。入場料収入も限られ、毎公演赤字は必至。したがって公的支援が必要不可欠と考えて助成を申請しました。

結果、本公演は国内外から高い評価を得ることが出来ました。また、リピーター観客が増えた手応えも感じています。1 日目の公演を見た人が 2 日目の当日券に並ぶ、あるいは 1 日目の評判を聞いて 2 日目を見に来た、といったケースが見受けられ、2 日目の公演の当日券が過去最高の売上枚数を達成しました。舞踊手の質の向上や、海外からの指揮者やゲストの招へいで国際交流に貢献できたことも、助成の力によるものだと考えます。主役ダンサーの怪我による降板の際に招へい指導者の助言で新人を代役として起用し、見事代役を務めたダンサーは次の公演で主役に抜擢されています。これは助成によって海外から招へいした指導者による功績とも言えるでしょう。

欧米の国立・一流バレエ団がレパートリーとする作品を安価に鑑賞できること、子供から大人まで幅広い年代に好まれ、バレエ鑑賞の入口として最適な作品を上演すること、そうした点に公益性があると感じています。今後もそのような作品の定期的な上演、レパートリーの増加、異分野とのコラボレーションなど、ぜひ助成金を活用して、活動を発展させていけたらと願っています。

一般財団法人 牧阿佐美バレヱ団
〒 164-0001　東京都中野区中野 6-27-13
Tel: 03-3360-8251　e-mail: info@maki-ballet.jp
URL: https://www.ambt.jp/

17 青年劇場第 122 回公演・飯沢匡没後 25 年記念『もう一人のヒト』

有限会社 青年劇場

助成金額　11,732 千円（年間活動支援 3 活動 24,380 千円の内数）

活動概要

1964 年創立の青年劇場は、今日の社会を描く現代劇の創造を進める一方、青少年のための優れた演劇の創造を追求し、日本近現代劇、海外作品などを意欲的に上演してきた。現在、東京を始め全国で年間約 200 ステージの公演活動を展開している。本公演は、戦前、戦中、戦後を通じて一貫して喜劇作品を書き続けた日本喜劇の草分け的存在である飯沢匡氏の没後 25 年を記念して企画。演出に気鋭の藤井ごう氏を迎え、戯曲の魅力を最大限に引き出すことで、戦後 75 年を前にして戦争の愚かしさと平和の大切さを若い世代に伝える上演を目指した。2019 年 9 月 14 日～ 22 日、東京新宿・紀伊國屋ホールにて全 11 回公演。

▲もう一人のヒト

▲もう一人のヒト

助成を受けて

対価と集客のみに捉われず、自由な発想で時間をかけて、新たな創作劇、あるいは新演出による作品の創造活動に取り組み、また、公演に関わった日本演劇を担う才能に対して正当な対価を支払うことが、多様性豊かな日本演劇の発展を支え、ひいては公益に資することになると考えます。しかし、こうした活動は経済的に成立させることが困難なこともあり、劇団の定例公演、小劇場公演については助成申請を行っています。青年劇場の場合、東京で作られる作品が全国の観客に発信されることもあり、地域振興、青少年育成などの新たな公益を生むとも考えています。

本作品では、戦争中の皇族の防空壕という舞台設定を忠実に反映するため、時代と風俗を象徴する小道具、衣裳等に神経を注ぎ、また、飯沢匡さんご本人の演出を受けた劇団として、その精神を失わない舞台美術とするために、様々なバリエーションの検討を行った結果、目標とする成果を達成することができました。その要因に助成があることは確かです。さらに、多くの経費がかかる舞台でありながら、助成により、中高生シートや演劇学校、養成所生徒の割引料金の設定が可能になり、250 名余の若い方々にご覧いただくことができました。

演劇の多様性は広く、深いものです。青年劇場が青少年を一つの公演対象として選択し、社会的なテーマを背負った作品を上演し続けているのは、青少年だからこそ未来に向き合うことが求められていると考えるからです。そうした作品群をどう作っていくことができるか、さらに地球環境そのものの未来が危機にあるなかで、人類社会の明日を見つめるような作品群の創作に取り組み、それを一人でも多くの人々に届けることに努力していきたいと考えています。

有限会社 青年劇場
〒 160-0022　東京都新宿区新宿 2-9-20　問川ビル 4F
Tel: 03-3352-6922　e-mail: info@seinengekijo.co.jp
URL: https://www.seinengekijo.co.jp

18 第六十五回　同明会能

一般社団法人 京都能楽囃子方同明会

助成金額　1,097 千円

活動概要

囃子の演奏内容に特色のある曲目を選定し、様々な上演形態で特殊な囃子演奏法を紹介するなど、能楽囃子の魅力をアピールする公演の実施により、能楽愛好家に新鮮な鑑賞感を提供するとともに、新規観客に能楽に対する興味を高めてもらうことで、能楽全体の普及振興、観客動員の増大を図っている。また、公演の開催により、芸事が脈々と伝承されていくことを目指している。京都随一の文教地区である左京区岡崎の催し物として半世紀以上の歴史を重ね、地域の街づくりのコンセプトに貢献すると共に、催しの少ない２月に実施し、他地方からの客演者のファンを呼び込むことによって、京都観光の一端を担っている。

65 回目となる公演は 2020 年２月 22 日、京都観世会館で開催。金剛流、観世流、宝生流、金春流、喜多流のシテ方五流の演者と京都能楽囃子方同明会会員が出演した。

▲撮影：上杉遥

助成を受けて

囃子方主催の会らしく「能の囃子」を全面に押し出すため、面や装束を付ける能を出さず、素囃子、舞囃子を主体に、京都ではあまり観る機会のない金春流や宝生流を加えた能楽五流すべてを揃えた多様性のある番組を構成しました。囃子方はシテ方五流を相手にするため、関西以外の土地から日本能楽会会員の優れた演者を招いて演奏することで会員の技量を高めること、また観客にも諸流の相違を知ってもらい、鑑賞眼を高めてもらうことを目指し、ほぼ満員の集客を得られました。催しの少ない２月に継続して行うこと半世紀を超え、京都の観光や文化の一翼を担っていると自負しています。

従来は会員の手弁当で運営してきましたが、周年記念等の際には遠方から著名なゲストを招いて稀曲や大曲を催すため大幅な赤字となり、運営には苦労してきました。充実した催しを継続するにはチケット代以外の安定した収入が必要であり、本助成金を申請しています。会発足 100 周年の記念会において、能２番等の豪華なプログラムで開催することができたのも、助成金の安心感によるものです。

能楽の催しのほとんどはシテ方中心で行われていますが、囃子方の主催による「音楽」の視点も加味された活動は、伝統の継承という公益の一助になっていると考えます。今後も能における音楽の専門家集団として、以前行っていた素囃子を中心とした催しを復活させる等、「能の囃子」を中心に据えた活動をさらに発展させていきたいと思います。

一般社団法人 京都能楽囃子方同明会
〒616-8372　京都市右京区嵯峨天龍寺広道町 10-10　前川方
Tel: 075-600-2259　e-mail: info@noh-doumeikai.com
URL: www.noh-doumeikai.com

19 一心寺門前浪曲寄席

公益社団法人 浪曲親友協会

助成金額　4,377 千円

活動概要

浪曲親友協会は、浪曲公演を通じて日本の伝統芸能文化である「浪曲」を保存・継承し、さらに普及拡大する活動により、我が国の伝統文化の発展に寄与することを目的として、主催浪曲公演、福祉施設への慰問活動、浪曲に関する調査研究、浪曲教室等での後継者育成、公的機関等の事業への協力等を通じて浪曲の普及啓発活動を行っている。

助成対象の一心寺門前浪曲寄席は、毎月３日間、年間36 日の通年事業。2019 年度は、台風 19 号及び新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部公演を中止し、計 32 回公演となった。

▲一心寺門前浪曲寄席

助成を受けて

一心寺門前浪曲寄席は、西日本で唯一の定席浪曲公演です。関西浪曲の発信基地として、開設以来の実績を糧に活動を続けていますが、公益事業を行うには自前資金だけでは困難であり、助成を受けようと考えました。助成によって採算至上主義に陥らず、質の高い企画を提供することができています。また、一心寺門前浪曲寄席の他に、「初夢で『見たよ、聞いたよ』浪花節」公演も助成を受けており、老人福祉センター、ハンセン病施設、病院、拘置所等を訪問して浪曲公演も実施しています。一般社会から離れている方、高齢者、障がい者の方々が、日本の伝統芸能文化である「浪曲」に触れ、癒される機会を設けるこれらの活動には、高い公益性があると考えています。

▲一心寺門前浪曲寄席

一心寺門前浪曲寄席では、夏の熱中症対策、秋の台風による公演中止の判断、新型コロナウイルス感染症対策等、課題が山積みです。2019 年度は残念ながら４日間の公演中止で 32 回公演となりましたが、26 年にわたる定期公演が定着して多くの方々に毎月の公演を楽しみにしていただいており、近畿一円のみならず全国からお越しいただくようになりました。助成金により入場料が低廉であることが最大の魅力で、３日連続でお運びいただく方や、障がい者の方々の来場も増加しました。公演後のアンケート調査や、お見送り時には「来て、見て、聞いてよかった」との声をいただいています。

最近では若手浪曲師が増加し、観客や曲師希望者にも若い世代が増え、将来に明るい兆しを感じています。浪曲の保存・継承のためには、後継者（次世代）育成が必要不可欠であり、若手浪曲師達が月一回絶えず公演できる場所を確保し、技芸の向上を図っていきたいと考えています。自己収入を増やすため、企画及び広報宣伝活動の充実を図り、観客数の増加を目指しつつ、今後もご支援をいただけるよう、協会内の体制を整えて活動を続けてまいります。

公益社団法人 浪曲親友協会
〒 540-0026　大阪市中央区内本町 1-1-10
Tel: 06-6467-4955　e-mail: info@rokyoku-shiyu.com
URL: https://www.rokyokushinyu.org/

20 山海塾ツアー 2019

特定非営利活動法人 山海塾

助成金額　16,470 千円

活動概要

1975 年に天児牛大が設立した山海塾は、フランスをはじめ世界各国で公演を行っている舞踏カンパニー。世界中で舞踏の人気が広がりを見せる中、日本のカンパニーとして多くの新たな若い観客に出会うことを願い、3 年ぶりのブラジル公演、5 年ぶりのアメリカツアーを行った。いずれも再訪を望まれていた地であり、長年にわたり独創的な創造活動を続けるカンパニーの現在地を強く印象づけるツアーとなった。公演は 2019 年 9 月 28・29 日のブラジル・サンパウロ（新作上演）を皮切りに、10 月 4 日～ 10 月 26 日まで、アメリカ・ロサンゼルス、シアトルほか（上演作は『海の賑わい 陸の静寂―めぐり』『あわせ鏡のはざまで―うつし』）。2 カ国 7 都市にて全 12 回公演。

▲『海の賑わい　陸の静寂―めぐり』@ Sankai Juku

▲『海の賑わい　陸の静寂―めぐり』@ Sankai Juku

助成を受けて

山海塾は設立以来、独自の芸術表現を確立しようと創造に努めてきました。ただ小さな創造団体ゆえに経済的な基盤が弱く、また世界で人気が高い舞踏というジャンルであるため遠方の国々から招へいされる機会も多いものの、現地主催者による人員や荷物の輸送費用負担は大きいものがあります。今回のブラジル・アメリカツアーでは各都市の劇場条件が様々であり、舞台技術上で少しずつ異なるものが必要になるため、その費用を補う意味でも本助成を申請しました。

ブラジルとアメリカの複数都市という非常に長い距離を結ぶツアーが可能となったのは、助成を受けられたからにほかなりません。大都市だけでなく、サンタ・バーバラのような比較的小さな大学の街でも公演でき、そこで初めて山海塾の舞台を観る学生を多く含む観客に出会えたことも、今回の大きな成果です。また、一つの作品を様々な観客の前で続けて上演することが舞踏手としての成長に直結することであり、公演期間を経た若手たちが大きく成長してくれました。

世界で「butoh」という言葉で通じるまでに人気を得たジャンルのカンパニーとして、新しい感性を持った観客たちに私たちの最新の創作の姿を提示することは、海外で日本の現代文化を深く理解する人々を増やしていくという、真の国際理解に通じる過程だと信じています。世界中で、スタンディングオベーションや、公演後に感極まって舞台の感想を伝えてくれる現地観客との交流といった「強い感情のゆさぶり」を伴う経験をしていることは、その証と言えるでしょう。

繊細な舞台美術・照明・音響から構成される時間と空間に加えて、緻密で集中度の高い振付が山海塾の魅力です。この舞台環境を維持し、何時何処でも最高レベルの上演を提供するために、今後も必要に応じて助成金を活用しながら、創作活動を続けてまいりたいと考えています。

特定非営利活動法人 山海塾
〒 162-0053　東京都新宿区原町 2-30-1205
Tel: 03-6709-8044　e-mail: admin@sankaijuku.com
URL: http://wwww.sankaijuku.com

21 舞台芸術の創造現場を魅せる劇場

公益財団法人 東京都歴史文化財団　東京芸術劇場

助成金額　58,949 千円

活動概要

▲ボッコちゃん ～ 星新一 ショートショートセレクション ～
© Photo by Nah Seung-yeol, provided by National Theater Company of Korea.

都民のための芸術文化施設、東京芸術劇場による「舞台芸術の創造現場を魅せる劇場」事業では、「創造発信」「人材育成」「教育普及」「地域の賑わいづくり」を柱に活動を展開。2019 年度はオーケストラの魅力を再発見する企画公演を実施してクラシックファンの期待に応え、また野田秀樹芸術監督の指導による「東京演劇道場」の本格的な活動開始、「舞台技術セミナー」「プロフェッショナル人材養成研修」などを通し、舞台芸術に関わるネクストジェネレーションの育成に取り組んだ。また国際文化交流の拠点として海外の舞踊、演劇、管弦楽団などの招へい公演を実施。多様な媒体を利用し、作品はもちろん、創造の課程を発信するなど、都の文化事業の中核を担う施設であることをアピールしている。

助成を受けて

▲招へい公演ローザス©阿部章仁

東京芸術劇場は、東京だけでなく日本を代表して全国区での創造発信を行っている自負があります。特に国際文化交流においてはより一層多文化理解を深めることを意図し、お互いの持つ技能を活かして新たな作品の創造に取り組んでいます。また、それらの活動を通じて、多くの若手人材に刺激を与え、国際的な人材に育つよう積極的な人材育成事業にも取り組んでいます。そのような創造発信事業・人材育成等を行う上で、設置自治体である東京都の自主財源だけでは事業費を賄えないため、助成を申請しました。助成を受けることにより、当劇場の４つのミッションである「芸術文化の創造・発信拠点」「人材育成の拠点」「教育普及の拠点」「賑わいの拠点」の達成に繋がっています。特に採択期間が５年間ということで、複数年で取り組まなければならない人材育成事業や、数年前から事業の交渉を始めなければならない国際的な事業においては成果を達成できると思っています。

こうした日本の舞台芸術を将来担うであろう若手の育成や、ニッチだが芸術性の高い作品の上演、さらには鑑賞機会の拡大といった点に、私たちの活動の公益性があると考えます。「多数の人が支持するものが良いものだ」という風潮の中で、少数派の居場所を確保することも社会の健全な発展には欠かせません。前衛的な表現や先進性のある表現、異文化交流のための場所を提供することで、その発展の一翼を担っていると感じます。

今後も世界への窓として、長期的な国際事業や世界の様々な舞台芸術界の活動紹介を通し、「劇場に行けば新しい発見ができる、ワクワクする」といった感性に働きかける劇場を目指します。劇場がある池袋から東京、関東、さらに日本、東アジア、そして世界に通用する舞台芸術の振興を行うためには助成金は不可欠であり、活用させていただきたいと思っています。

公益財団法人 東京都歴史文化財団　東京芸術劇場
〒 171-0021　東京都豊島区西池袋 1-8-1
Tel: 03-5391-2111　e-mail: geigeki-info@geigeki.jp
URL: https://www.geigeki.jp/

22 グランドオペラ共同制作　ビゼー作曲 オペラ『カルメン』全４幕

神奈川県民ホール（公益財団法人 神奈川芸術文化財団）

助成金額　73,387 千円

活動概要

▲オペラ『カルメン』©林喜代種

▲オペラ『カルメン』©林喜代種

各地域の中核劇場として共同制作オペラの実績があり、世界の歌劇場と肩を並べる規模を持つ神奈川県民ホール、愛知県芸術劇場、札幌文化芸術劇場 hitaru の３つの劇場が、日本を代表するオペラ団体である東京二期会、各地域を代表する演奏団体である神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団と連携し、オペラ『カルメン』を新たに制作・上演した。今回は、オペラから古典芸能まで多彩に手掛ける田尾下哲の新演出により、舞台を 19 世紀スペインから 21 世紀アメリカのショービジネスの世界に置き換えて上演。終演後の演出家との交流会（神奈川公演）や専門家によるレクチャー、リハーサル見学および展示等の関連企画を各地域で開催するなど、幅広い層を対象に、オペラへの理解を深め興味を喚起させる取り組みを行った。

助成を受けて

総合芸術であるオペラを各地域で制作上演することで、クリエイティブな地域社会の形成に寄与し、高水準の舞台芸術に触れる経験と、オペラを通して世界の文化を知り、感性を高め、豊かな心を育む機会を提供したい。また、劇場と芸術団体が協力し、拠点施設の機能強化を推進して、実演芸術鑑賞の地域間格差の解消を実現させる一助とするため、助成を申請しました。

ビゼーの最高傑作オペラ『カルメン』は、ソリストの充分な力量、児童合唱も含めた大編成の合唱および管弦楽に加えダンスも要する、スケールの大きな作品です。今回助成をいただいたことで、国内外第一線で活躍する指揮者、出演者、プランナーを迎え、芸術性・革新性・娯楽性を備えた質の高い舞台を新制作することができました。また、日本語と英語による二ヶ国語字幕や、広報物・プログラムの英文表記、二ヶ国語での会場アナウンスおよびチケット販売等、多言語対応への布石を打つことができました。さらに、受益者負担の軽減を実現させ、毎年リピーターを増やしている本共同制作オペラのより一層の顧客拡大へと繋げることができました。知名度の高い講師を起用した入門講座やプレレクチャー、地域の劇場・音楽堂や団体との連携による初心者向けミニオペラ上演などの関連企画の充実や、大胆な新演出で従来の概念を超えたオペラの新しい可能性を創造発信したことにより、若い世代の観客や、今までオペラを観たことのない新たな観客を取り込み、未来のオペラ観客層を開拓することができたと感じています。

今後も一流のキャスト・スタッフ陣による国際的水準の舞台を多くのお客様に鑑賞してもらえるよう、助成を活用させていただきたいと思っています。

神奈川県民ホール（公益財団法人 神奈川芸術文化財団）
〒 231-0023　神奈川県横浜市中区山下町 3-1
Tel: 045-662-5901（代表）　URL: https://www.kanagawa-kenminhall.com/

23 鼓童ワン・アース・ツアー 2019『道』

株式会社 北前船

助成金額　6,672 千円

活動概要

▲写真：岡本隆史

▲写真：岡本隆史

創立 37 年目を迎えた鼓童の、舞台の核となる演目を中心に構成した作品『道』を、国内各地の劇場・音楽堂で上演。『道』は、鼓童の前身である「佐渡の國・鬼太鼓座」の時代から国内外で愛されていた楽曲を中心とした、“ 和太鼓の古典 ” と呼べる作品である。キャストは、鼓童の初期からのメンバーと現在の舞台の中心的メンバー、キャリアの浅い若い演奏者たちから成り、ベテランが若いメンバーへ鼓童の精神や技術を伝えていく形となっている。

ツアーは 2019 年 5 月～ 10 月、宮城県、岩手県、秋田県、北海道、大阪府、三重県、香川県、愛媛県、長崎県、広島県の 10 会場で全 11 公演を実施。全公演の動員合計は目標を 20%上回った。特に学生券を設定した 5 カ所のうち、2 カ所ではアンケート回答者の世代比率で 10 代が占める割合が全体平均の 2 倍となるなど、若年層誘客の効果が表れた。

助成を受けて

「ワン・アース・ツアー」というタイトルには、世界各地を巡り、太鼓の響きが作り出す「共感共同体」を広げたいという思いが込められています。これまで 50 を超える国や地域で 1,700 回以上の公演を行った実績から、日頃から日本語・英語でのバイリンガルでの情報発信に努めており、今回もすべての劇場で日本語と同レベルの情報発信（ウェブサイト、場内アナウンス、公演プログラム）を英語で行ったほか、英語の公演チラシを作成し観光案内所等に設置しました。また佐渡の鼓童事務所や公演会場でもバイリンガルのスタッフが対応し、外国人来場者へスムーズに客席案内を行うことができました。さらに、全国レベルの媒体においてツアーの情報発信を行ったこと、ツアー中にワークショップ等を通じて地元の高校の太鼓部や太鼓グループと交流を持てたことも、本助成を通して実現できたことだと思っています。

このように、外国からの来場者に情報提供を行い作品への深い理解と共感を促し、それを入り口にして日本の文化や芸術に興味を持ってもらうこと、また、学生等若い層に向けたアウトリーチ活動で将来を担う若者に教育的効果をもたらす点に、活動の公益性があると考えます。

太鼓の響きを直接体感できる舞台公演ツアーはグループ活動の柱ですが、コロナ禍の影響で劇場興行へのダメージは大きく、一度劇場に忌避感を抱いて離れてしまった観客を呼び戻し、今後も継続的に実施するためにも、インターネット等を活用したリモートでの表現活動も並行して探求してまいりたいと考えています。

株式会社 北前船
〒 952-0611　新潟県佐渡市小木金田新田 148-1
Tel: 0259-86-3630　URL: https://www.kodo.or.jp/

24 ある船頭の話

株式会社 木下グループ

助成金額　20,000 千円

活動概要

俳優として国際的な活動を続けるオダギリジョーが長年温めてきたオリジナル・ストーリーを自ら脚本、監督した本作品は、時代の移り変わりの中に生きる年老いた船頭と少女の交流を、壮大な自然の中に描いたものである。日本映画界を代表する俳優陣の出演と共に、ウォン・カーウァイ監督作品で知られる撮影監督クリストファー・ドイル、米国アカデミー衣裳デザイン賞受賞のワダ・エミ、世界が注目するジャズ・ミュージシャン、ティグラン・ハマシアンがスタッフとして参加、国際的なプロジェクトとして注目を集めた。撮影は昔の日本の面影を残す新潟県阿賀野川流域で行われた。2018 年 7 ～ 8 月・2019 年 1 月撮影、2019 年 5 月 9 日初号試写。同年 9 月 13 日より全国劇場公開。2019 年ヴェネチア国際映画祭をはじめ世界各地の映画祭に招待されている。上映時間 137 分。

▲©「ある船頭の話」製作委員会

▲©「ある船頭の話」製作委員会

助成を受けて

本作品の夏の場面の撮影時に、予測していなかった経費が発生することがわかりました。主人公の船頭が住む川べりの小屋を設営した河原の地盤が非常に弱く、危険回避のために整地作業を行う必要が生じました。また川の流れが予想以上に急で、小舟や撮影用の船をコントロールするための人員の増強、万が一の事故に備えて救命スタッフを常駐させる必要が発生しました。こうした保安のための予算を助成により得ることができ、大きな事故もなく撮影を終了できました。

助成を受けられたことでクオリティの高い作品を完成させることができ、映画はヴェネチア国際映画祭にて作家性を重視した作品が選ばれる「ヴェニス・デイズ」部門より招待を受けました。2019 年の同映画祭で公式上映された唯一の日本映画であり、日本映画のクオリティの高さを世界に示すことができたと自負しています。その後も韓国・釜山映画祭、中国・平遥映画祭、台北・金馬奨映画祭をはじめ様々な国の映画祭から招待を受けました。特にインドのケララ映画祭、トルコのアンタルヤ映画祭ではコンペティション部門の最優秀作品賞を受賞しました。こうして海外の多くの映画祭に招待され、受賞も果たした原因の一つとして、この映画に貫かれている社会における弱者に対する温かい視線が、文化の異なる国の人々に受け入れられた点があると思います。インド、エジプト、イスラエル、トルコといった、多くの日本映画が紹介されているとは言えない地域でこの映画が上映され、高い評価を受けたことは、日本映画が持っている芸術性の高さをこうした地域の人々に気づいてもらえることに貢献できたのではないかと思います。今後も、まだ本作が上映されていない地域の映画祭での上映を積極的に進めたいと考えております。

株式会社 木下グループ
〒 106-0032　東京都港区六本木 7-8-6　AXALL 六本木 3F
Tel: 03-6459-2671　URL: www.kinofilms.jp

25 影裏（えいり）

株式会社 OFFICE Oplus

助成金額　10,000 千円（2 か年度助成）

活動概要

▲© 2020「影裏」製作委員会

▲© 2020「影裏」製作委員会

エンターテイメント性の高い作品を作る印象が強い大友啓史監督が、『ハゲタカ』『龍馬伝』など NHK 時代に手がけてきた濃密な人間ドラマへと原点回帰し、故郷・岩手県を舞台とする物語に挑んだ。人間の心の裏側を描き、2017 年に芥川賞を受賞した沼田真佑の小説「影裏」を映画化した本作は、マイノリティや東日本大震災という繊細なテーマも同時に扱い、ミステリータッチの中で、様々な思いを抱えて生きていく人間の強さ、逞しさを描いている。撮影は全編岩手ロケを敢行。美しい自然と街や人々の生活を切り取り、岩手が持つ魅力を発信すると共に、制作時より地元の人々の参加や協力を得ることで、映画製作を通して地域を盛り上げた。出演は綾野剛、松田龍平ほか。撮影は 2018 年 7 月～ 2019 年 4 月、2019 年 7 月 25 日初号試写。2020 年 2 月 14 日より劇場公開された。上映時間 134 分。

助成を受けて

近年はシネコン文化が浸透したことにより、小規模作品は資金回収もままならず、映画の多様性が失われつつあると感じます。そのような環境の中、あえて純文学を題材とする作家性の強い作品に挑戦するために、本助成を受けることは製作上不可欠だと考えました。原作小説の舞台が大友監督の出身地でもある岩手県だったため、全編岩手県ロケを行うことは企画の必須条件です。季節や歳月の移り変わりも物語上の重要な要素で、2018 年夏の撮影をメインにしつつ、「3.11」を描くシーンでは春季の撮影にこだわる必要がありました。限られた条件下で全編地方ロケ＆季節をまたぐ撮影を実施したため、予算繰りとスケジュール設定には非常に苦労しましたが、助成を受けたことにより、撮影の機材費と人件費に予算を回すことができ、岩手県各地で延べ約 1 カ月にわたる撮影を行うことができました。準備段階から多数の地元の方々の参加や協力をいただき、微力ながら東北の復興に一役買うこともできたのではないかと思います。また助成により、マルチ 2 カメラ体制へと変更できたため、撮影効率が向上し、無事に撮影を終了できました。

2019 年 12 月に開催された第 2 回海南島国際映画祭では、コンペティション部門に正式招待され、松田龍平さんがベストアクター（最優秀俳優賞）を受賞。目標だった海外映画祭への参加も果たすことができました。今作のように多様なテーマを描く作品が絶えず製作されることで、世代・性別・国籍などの違いによって生まれる価値観の多様性に対する理解、豊かな人間性の獲得に貢献できると信じています。本年の米国アカデミー賞で偉業を達成した韓国映画『パラサイト』の後に続き、世界に届くような作品を日本からも発信していくことを目指していきたいです。

株式会社 OFFICE Oplus
〒 150-0001　東京都渋谷区神宮前 2-33-12　ビラ・ビアンカ
URL: https://office-oplus.co.jp/

26 くじらびと

Bonfilm 合同会社

助成金額　5,970 千円

活動概要

▲銛を打ち込まれ逃げるマッコウクジラ　撮影：石川梵

▲鯨の急所をめがけ、銛を打ち込む　撮影：石川梵

インドネシア、レンバタ島では、今なお銛一本で鯨を突く伝統的生存捕鯨が行われている。貧しい村では鯨を獲らなければ 2,000 人の村人が生きていけない。命がけで鯨漁をする男たちと、彼らを支える家族の姿を通して、現代社会で忘れられようとしている家族やコミュニティの絆、大自然と共にある生き方の素晴らしさを、現代日本、そして広く世界へ伝えることを目指した。本作の監督であり、撮影者の石川梵は、写真家として 30 年にわたりこの村を取材し、本や写真集を出版。関西テレビ『捕鯨に挑む』（1997 年）では共同演出を担当し、ATP ドキュメンタリー賞を受賞している。いつ消えるかもしれない貴重な生存捕鯨を映像記録として残したいという強い意志のもと、3 年に及ぶ密着取材により、大自然と生きる人々の美しさと厳しさ、生き物を食べることの厳粛さと感謝を伝えるドキュメンタリーとなった。撮影は 2017 年 4 月～ 2019 年 10 月、初号試写は 2020 年 3 月 31 日。2021 年 2 月～ 3 月に劇場公開予定。上映時間 113 分。

助成を受けて

内容の充実を図り、小資本のドキュメンタリー作品としては異例の 3 年間にわたる海外取材を敢行したため、商業ベースに乗らず、制作会社の負担は莫大なものとなっていました。監督自身のギャラ未払いによる撮影や、友人知人の献身的協力と応援者（クラウドファンディング）によって製作していましたが、映画を満足のいく形で完成させるために助成を申請しました。

ドキュメンタリーは長期取材をすればするほど、深いものができます。特に今回の題材は、いつ出現するかわからない鯨が相手。結局、狙っていた鯨漁に遭遇するのは 3 年目の取材最終日前日、しかも追い続けていた主人公が鯨を捕るという、奇跡のような展開でした。編集では特に音響にこだわり、鯨漁のシーンでは音楽をほとんど使わなかったため、リアリティを高めるために音響には大きな予算をかけました。助成によって、こうした音響効果や音楽などポスプロ（撮影後の編集・仕上げ作業）を充実させることができ、映画の完成度が非常に高くなりました。助成がなければ、迫力のある鯨漁シーンの印象も全く違ったものになったはずですし、長期の編集も実現できませんでした。これらのレベルアップによって、映画は世界水準になったと思います。

この映画ではグローバリズムに翻弄されながら伝統を守ろうとする地元の人たちの姿も捉えることができ、日本のみならず海外でも大きく展開できると考えています。経済至上主義の現代において、失われかけている文化や、忘れかけている大事なこと、家族やコミュニティの絆をテーマに、これからも制作を続けていくつもりです。

Bonfilm 合同会社
〒 194-0021 東京都町田市中町 3-6-8　テラス中町 102
Tel: 042-725-2696　e-mail: lamafa@me.com
URL: https://bonlamafa.wixsite.com/bon-ishikawa-photog

27 HELLO WORLD

株式会社 グラフィニカ

助成金額　21,990 千円

活動概要

デジタル総合プロダクションとしてテレビ･劇場アニメの制作に携わるグラフィニカが、初のオリジナル劇場公開作品を制作。2009 年の設立以来培ってきたデジタル技術を生かし、幅広い世代に感動を与えるアニメーション映画を目指した。『劇場版 ソードアート・オンライン －オーディナル・スケール－』の伊藤智彦監督、『know』『正解するカド』の野崎まどによるオリジナル脚本、『けいおん！』の堀口悠紀子によるキャラクターデザインと、気鋭のクリエイター陣が結集。2027 年の京都を舞台に、10 年後の自分と出会った主人公が、愛する人を救うため未来を変えるべく奮闘する。声の出演は、主人公直実に北村匠海、10 年後の主人公ナオミに松坂桃李、ヒロイン瑠璃に浜辺美波。

2017 年 10 月より企画・シナリオ、絵コンテ・モデル開発、2018 年 6 月よりアニメーション制作・撮影、ダビング・編集・DCP 作業を行い、2019 年 9 月 5 日に初号試写。9 月 20 日より東宝株式会社配給にて全国 255 館で劇場公開された。上映時間 95 分。

▲『HELLO WORLD』京都プレミア レッドカーペット

▲『HELLO WORLD』感謝御礼舞台挨拶キャンペーンサイン会 @ 京都
奥：伊藤智彦監督／手前：横川和政アートディレクター・CG 監督

助成を受けて

グラフィニカは日本のアニメーション＝ジャパニメーションの表現力をデジタルの力で革新していく一助になればとの願いから、VFX や CG の制作を軸としたスタジオとして設立されました。設立 10 周年を迎える 2019 年に初のオリジナル劇場公開作品として制作させていただいた本作は、10 年間の総括と同時に、今後 10 年の成長の礎となりうる作品を目指しました。

新しい挑戦のためには更なる制作費用が必要との判断から、本助成金を申請しました。ジャパニメーションのクリエイティブを CG 技術で表現するノウハウの構築のため、助成金をアニメーション制作費にあてることができ、素晴らしいスタッフ・キャストの皆様にご協力いただくことができました。その結果として、文化都市・京都の魅力とジャパニメーションを上手く融合させ、国内だけでなく世界にアピールできる作品を完成できたと自負しております。また、障害者字幕音声ガイドの制作により、障害のある方々にも映画を観ていただくことができました。

企画段階から度々京都に足を運び、京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2019 への出展、立命館大学でのトークショー開催、東本願寺でのレッドカーペットイベントとプレミア試写会、スタンプラリーや“聖地”巡礼イベントなど、地元企業から協力を得て、産学官連携の上、京都の街と作品を盛り上げる取り組みができたと思っています。

時代が変わっても、アニメスタジオが果たすべき役割は、心を震わせるアニメ作品を作り続けることです。そのためにも我々の強みであるデジタル技術を生かし、スタッフの環境を整え、今後も新たなる挑戦を続けてまいります。

株式会社 グラフィニカ
〒 161-0034　東京都新宿区上落合 3-10-8　オーバル新宿ビル 1F
Tel: 03-5937-6411　URL: http://www.graphinica.com/

芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等から寄附金を原資として創設され、我が国の文化芸術活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。

御支援に深く感謝いたします。

支援企業グループ

建　設

青木あすなろ建設㈱
㈱安藤・間
㈱大林組
鹿島建設㈱
㈱熊谷組
佐藤工業㈱
清水建設㈱
積水ハウス㈱
大成建設㈱
㈱竹中工務店
戸田建設㈱
飛島建設㈱
西松建設㈱
㈱長谷工コーポレーション
㈱フジタ
前田建設工業㈱

食　品

アサヒグループホールディングス㈱
味の素㈱
キッコーマン㈱
キリンホールディングス㈱
サッポロホールディングス㈱
サントリーホールディングス㈱
雪印メグミルク㈱

繊　維

東洋紡㈱
東レ㈱
㈱ワコールホールディングス

パルプ・紙

王子ホールディングス㈱
日本製紙㈱

化学・医薬

花王㈱
㈱資生堂
昭和電工㈱
積水化学工業㈱
第一三共㈱
三菱ケミカル㈱

石油・鉄鋼

出光興産㈱
日本製鉄㈱

機械・精密機械

日本精工㈱
HOYA㈱
㈱リコー

電気機器

沖電気工業㈱
キヤノン㈱
コニカミノルタ㈱
㈱JVCケンウッド
シャープ㈱
ソニー㈱
TDK㈱
㈱東芝
日本コロムビア㈱
日本アイ・ビー・エム㈱
日本電気㈱
パイオニア㈱
パナソニック㈱
㈱日立製作所
富士通㈱
三菱電機㈱
㈱村田製作所

輸送用機器

トヨタ自動車㈱
日産自動車㈱
本田技研工業㈱
三菱重工業㈱

楽　器

㈱河合楽器製作所
ヤマハ㈱

印　刷

大日本印刷㈱
凸版印刷㈱

百　貨　店

㈱髙島屋
㈱三越伊勢丹ホールディングス

銀　行

㈱新生銀行
㈱みずほ銀行
みずほ信託銀行㈱
㈱三井住友銀行
三井住友信託銀行㈱
㈱三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行㈱
㈱横浜銀行
㈱りそな銀行

証　券

SMBC日興証券㈱
㈱大和証券グループ本社
野村證券㈱
みずほ証券㈱
三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱
山一證券㈱

保　険

アクサ生命保険㈱
朝日生命保険相互会社
ジブラルタ生命保険㈱
住友生命保険相互会社
損害保険ジャパン㈱
第一生命保険㈱
大樹生命保険㈱
大同生命保険㈱
太陽生命保険㈱
T＆Dフィナンシャル生命保険㈱
東京海上日動火災保険㈱
日本生命保険相互会社
富国生命保険相互会社
三井住友海上火災保険㈱
明治安田生命保険相互会社

不　動　産

住友不動産㈱
東急不動産㈱
三井不動産㈱
三菱地所㈱

輸　送

カトーレック㈱
全日本空輸㈱
東急㈱
日本航空㈱

観　光

㈱JTB
藤田観光㈱

出　版

㈱講談社
㈱小学館

広　告

㈱電通
㈱博報堂

通信・その他

（公財）清栄会
（公財）全国税理士共栄会文化財団
日本たばこ産業㈱
東日本電信電話㈱

（令和2年9月現在　順不同）

独立行政法人　日本芸術文化振興会

芸術文化振興基金による助成

目　　的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- □ オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- □ 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- □ 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- □ 美術の展示活動
- □ 国内映画祭等の活動
- □ 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- □ 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- □ 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- □ 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- □ アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- □ 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html をご覧ください。

文化芸術振興費補助金による助成

目　　的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動、国際的な実演芸術の公演活動、劇場･音楽堂等が主体となって行う実演芸術の創造発信等、並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

助成対象活動

◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- □ 音楽・・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- □ 舞踊・・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- □ 演劇・・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- □ 伝統芸能・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- □ 大衆芸能・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）支援の区分には、複数の活動を含む３年間の活動計画に対して継続して助成を行う「複数年計画支援」と１活動に対して助成を行う「公演事業支援」があります。
なお、「複数年計画支援」については、芸術団体の集客努力や収益力強化を促すため、入場料収入や寄付金等収入の額、有料入場率の結果に応じて助成金の額が変動する仕組みを導入しています。
また、「公演事業支援」については、これまで当該事業の助成を受けていないが、昨今の活動の発展が目覚ましく、将来性に期待ができる団体の新規参入を促すため、法人設立から 10 年以内の団体のみが申請できる「ステップアップ枠」を設けています。

◆国際芸術交流支援事業

- □ 海外公演
- □ 国際共同制作公演（海外公演・国内公演）
- □ 国際フェスティバル

◆劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- □ 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
- □ 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
- □ 共同制作支援事業
- □ 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業

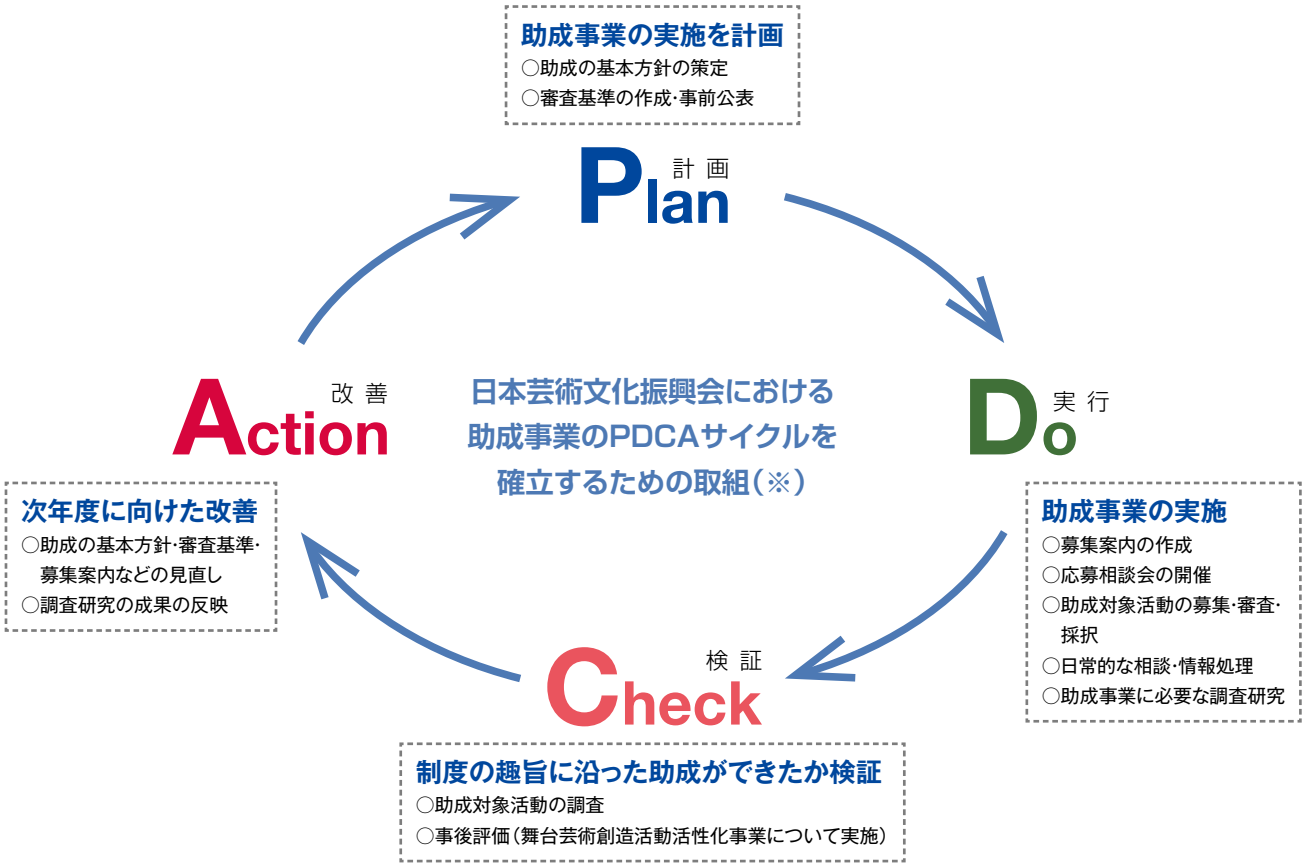
◆映画製作への支援

- □ 劇映画、記録映画、アニメーション映画

※詳細は、ホームページ https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html をご覧ください。

文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

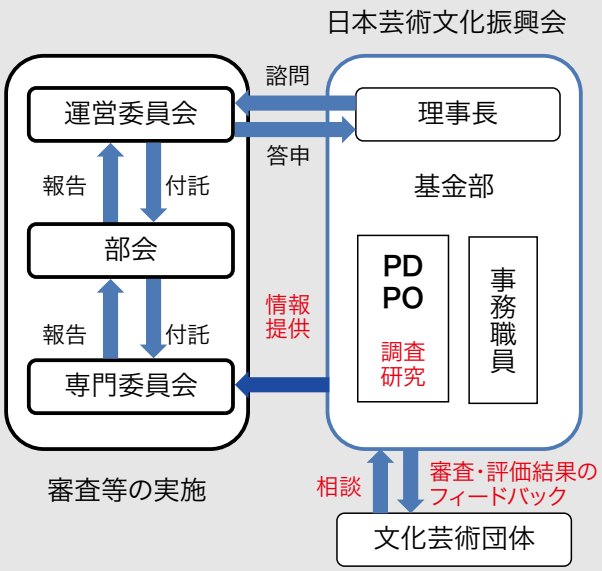
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の４分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の４段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

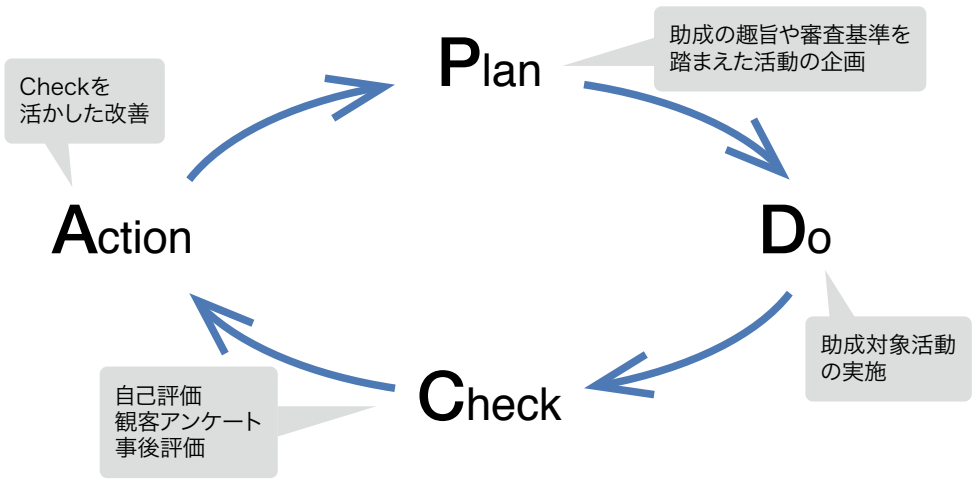
取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・PO は、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。



助成を受けた文化芸術団体も、団体としての PDCA サイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていくことが必要です。



文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成 23 年 2 月 8 日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第 3 次基本方針）では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくことになります。

詳しくは HP をご覧ください➡　https://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html

助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター（PD）・プログラムオフィサー（PO）制度	文化芸術に関する専門家である PD・PO を配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等について PD・PO に相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO 等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果は PD・PO を通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発　行　日
令和２年９月30日

編集発行
独立行政法人
日本芸術文化振興会　基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎03-3265-6302
URL https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html